

【科目名】	保健体育Ⅱ		【担当教員】	粟生田 博子
【授業区分】	教養分野(体育関係学)	【授業コード】	1-04-0130-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	aoda@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 水曜日12:45~13:15
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・身体活動に興味を持って自ら積極的に参加する学生の受講を望む。 ・事前の聴講希望調査に従って履修手続を行うこと。 ・集中講義の形式となる。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・学内施設および学外施設を使用する場合がある。また、活動内容によっては、実施に関する費用や用具の準備等は個人負担となる場合がある。 ・新潟県特別支援学校スポーツ大会に学生サポート・リーダーとして参加する。 ・ポータルサイトのポートフォリオ機能を使用してレポート提出・フィードバックなどを行う。 				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括システムやインクルーシブ教育など、医療福祉教育分野を取り巻く社会背景の変化を踏まえ、将来、セラピストとして臨床現場で活動するために有益な、身体活動をツールとした実践的な活動を通じた支援者経験を得ることを目的とする。 <p>*当該科目と学位授与方針等との関連性；A-1, 2, 3</p>				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・学内での活動のみならず、学外での活動を主に実施するまた、自分自身が多くの種目を経験して実践するだけでなく、多種多様な対象者と環境に即した身体活動を考案し、対象者に指導したり支援したりする。実施後は各自が振り返りを行いポートフォリオを作成する。 				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢、性別、障がいの有無等にかかわらず、身体活動を提供するためのプランを考え、実施することができる。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるインクルーシブ・スポーツの概念を理解する ・活動環境に応じた体力作り、健康づくりに関するプランを作成・実施することができる ・実施後、プランについて振り返りを行い、よりよいプランを検討することができる ・活動内容をポートフォリオにまとめ、報告することができる 				
【教科書・リザーブドブック】				
特になし				
【参考書】				
随時紹介する				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 ・ポートフォリオレポート評価基準を初回講義時に提示する。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合					40	30	30		100
評価指標	取り込む力・知識						10		10
	思考・推論・創造の力				10		10		20
	コラボレーションとリーダーシップ				10	15			25
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢				10	15	10		35

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	ガイダンス, インクルーシブ・スポーツ講義	講義, グループワーク (GW)		
2	インクルーシブ・スポーツ実践 (1)	GW, 実技	種目検討, 事前準備	30
3	インクルーシブ・スポーツ実践 (2)	GW, 実技	種目検討, 事前準備	30
4	インクルーシブ・スポーツ実践 (3)	GW, 実技	種目検討, 事前準備	30
5	インクルーシブ・スポーツ実践 (4)	GW, 実技	種目検討, 事前準備	30
6	インクルーシブ・スポーツ実践 (5)	GW, 実技	種目検討, 事前準備	30
7	インクルーシブ・スポーツ実践 (6)	GW, 実技	種目検討, 事前準備	30
8	インクルーシブ・スポーツ実践 (7) 振り返りとまとめ	GW, 実技	種目検討 まとめ (レポート)	60

【科目名】 医療英文抄読法		【担当教員】 梶浦 麻子	
【授業区分】 教養分野(外国語)	【授業コード】 1-06-0220-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	kajiura@nur.ac.jp	
【単位数】 2	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 水曜3時～4時	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
試験結果の返却及び解説をもってフィードバックとする。			
【講義概要】			
(目的)			
英語で書かれた学術論文に慣れ親しむ。また、英語を医療分野の公用語としてとらえ、将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに手にできる基盤を身につける。			
(方法)			
解剖学や生理学などの基礎医学用語、医療現場でよく用いられる専門用語、疾患名、医療関係者が用いる略語、薬剤名や検査法/検査機器名、英語で記載されたカルテや報告書に触れる機会を多数設ける。また、学術雑誌に掲載される症例報告や研究論文(臨床研究および基礎研究)を個々の学生の興味や専門分野に合わせて選択し、グループ作業も含めて読みこなす練習をする。			
【一般教育目標(GIO)】			
英語で書かれた学術論文に慣れ親しみ、将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読む基盤を身につける。			
【行動目標(SB0)】			
学術論文の形式を示すことができる。学術論文を読むポイントがわかる。文献リストの意義がわかる。			
【教科書・リザーブドブック】			
指定教科書無し 辞書(和英・英和)は毎授業持参のこと。スマートフォンの使用は禁ずる。			
【参考書】			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
小テスト及びレポートの結果を総合的に評価する。 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みまない。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合			50	50					100
評価指標	取り込む力・知識		50	25					75
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			10					10
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション	講義及び演習	授業内容の復習	30分
2	学術論文・英語論文とは	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
3-4	論文題目の読み方	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
5-6	PubMedの使い方	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
7-9	オンライン情報の検索及び分析	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
10-12	Research Topic 及び Research Questionについて	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分
13-15	IMRADについて	講義及び演習	授業内容の復習 新出単語の予習・復習	30分

【科目名】	国際理解演習		【担当教員】	張馬 梅蕾
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0225-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	選択	harima@nur.ac.jp
【単位数】	2	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日14:00~17:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修に行くことを前提とします。 ・研修費用は自己負担となります。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・海外での団体行動であるため、参加者の協力が重要である。 ・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。 				
【講義概要】				
(目的)				
<p>各自の研究テーマに沿った事前研究、外国における実地体験、レポート作成を通して、物事に対する探究心、諸外国の社会や文化への理解を深めることを目標とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2</p>				
(方法)				
<p>本学企画の海外研修旅行に参加、あるいは個人旅行、ホームステイなどを行う学生が履修できる。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して国際理解・異文化を理解し、社会や国内外の人々とコミュニケーションできる能力を高める。 ・旅行を通して集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案などを学習する。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・他国での社会ルールを知る。 ・言語の違いを克服する。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料を配布します。 				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で参考となる本を紹介していく。 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポート点により評価する。 ・出席点は評価に含みません。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60	20			20	100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			30					30
	発表力			0	20				20
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション：海外研修の目的	講義	予習：海外旅行に関する知識を身につけておくこと。外務省HPで治安状況を調べておくこと。	30
2	国際社会とリハビリテーション 国際社会における日本の位置付け：WCPT・WFOT	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30
3	海外研修の紹介 (主に中国の紹介)	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30
4	各国のリハビリテーションの現状 (1)	講義 チーム活動	予習：米国およびアジアにおける医療について自己学習しておくこと。	60
5	各国のリハビリテーションの現状 (2)	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	60
6	海外研修	実習		
7	海外研修	実習		
8	海外研修	実習		

9	海外研修	実習		
10	海外研修	実習		
11	海外研修	実習		
12	海外研修	実習		
13	海外研修	実習		
14	海外研修	実習		
15	発表会	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	120

【科目名】	国際理解演習		【担当教員】	張馬 梅蕾
【授業区分】	教養分野(外国語)	【授業コード】	1-06-0225-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	選択	harima@nur.ac.jp
【単位数】	2	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 水曜日14:00~17:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修に行くことを前提とします。 ・研修費用は自己負担となります。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・海外での団体行動であるため、参加者の協力が重要である。 ・試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。 				
【講義概要】				
(目的)				
<p>各自の研究テーマに沿った事前研究、外国における実地体験、レポート作成を通して、物事に対する探究心、諸外国の社会や文化への理解を深めることを目標とする。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性：A-2</p>				
(方法)				
<p>本学企画の海外研修旅行に参加、あるいは個人旅行、ホームステイなどを行う学生が履修できる。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業を通して国際理解・異文化を理解し、社会や国内外の人々とコミュニケーションできる能力を高める。 ・旅行を通して集団行動に関するマナーの習得、旅行計画の立案などを学習する。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・他国での社会ルールを知る。 ・言語の違いを克服する。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて資料を配布します。 				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で参考となる本を紹介していく。 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポート点により評価する。 ・出席点は評価に含みません。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合				60	20			20	100
評価指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ			30					30
	発表力			0	20				20
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	オリエンテーション：海外研修の目的	講義	予習：海外旅行に関する知識を身につけておくこと。外務省HPで治安状況を調べておくこと。	30
2	国際社会とリハビリテーション 国際社会における日本の位置付け：WCPT・WFOT	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30
3	海外研修の紹介 (主に中国の紹介)	講義	予習：国際社会における日本の役割について調べておくこと。	30
4	各国のリハビリテーションの現状 (1)	講義 チーム活動	予習：米国およびアジアにおける医療について自己学習しておくこと。	60
5	各国のリハビリテーションの現状 (2)	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	60
6	海外研修	実習		
7	海外研修	実習		
8	海外研修	実習		

9	海外研修	実習		
10	海外研修	実習		
11	海外研修	実習		
12	海外研修	実習		
13	海外研修	実習		
14	海外研修	実習		
15	発表会	講義 チーム活動	予習：口頭発表の準備 復習：グループワーク内容の確認	120

【科目名】	地域福祉論		【担当教員】	林 正海
【授業区分】	専門基礎分野(社会福祉)	【授業コード】	2-13-0395-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	office@hayashi-fukushi.net
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 授業後とメールで質問相談に応じる
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
【講義概要】				
(目的)				
医療・リハビリテーション・福祉・介護・防犯など様々な領域で地域福祉の理解は必須となりつつあります。地域福祉の考え方を学ぶことで、地域や臨床において住民や他専門職と連携して、患者等に対する個別支援と地域支援をしていくことの重要性を理解します。地域福祉の理念や概念、歴史展開、法制度の総論的理解を深めます。				
(方法)				
主として、教科書と配布資料、映像資料を使用します。前半は地域福祉に関する映像資料を視聴し、専門職のみの個別支援ではなく、地域住民との協働の必要性について講義を行います。その後、教科書を用いて、地域福祉の理念、概念、歴史展開、を理解するための講義を行います。後半では、地域福祉に関わるマンパワーである社会福祉協議会やボランティアコーディネーター、ケアマネジャー、地域包括支援センター、民生委員・児童委員について理解するため講義を行います。				
【一般教育目標(GI0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉に関する概略を理解する。 ・コミュニティケアの概略を理解する。 ・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンを理解する。 ・地域における住民と多専門職との連携の必要性について理解する。 ・地域福祉に関わるマンパワーに関して理解する。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉/コミュニティケアが求められる社会的背景を説明できる。 ・ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンについて説明できる。 ・地域住民と多専門職による地域協働が求められる理由を説明できる。 ・地域福祉に関わる主要な社会資源である社会福祉協議会、ボランティアコーディネーター、ケアマネジャー、地域包括支援センター、民生委員・児童委員について説明できる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書：上野谷加代子/松端克文/山縣文治[編]，よくわかる地域福祉（第5版），ミネルヴァ書房，¥2200（税別）				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉理解を促進するための視聴動画 制作・著作NHK 題名：NHKドラマ10「サイレント・プア」（放送年：2014.4.8-2014.6.3） ・直近年度の厚生労働白書・地方財政白書 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は本学学則既定のGPA制度に従う。 ・成績評価はレポート点と授業の積極的態度により総合的に評価する。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		0	0	80	0	0	0	20	100
評価指標	取り込む力・知識			60				0	60
	思考・推論・創造の力			20				0	20
	コラボレーションとリーダーシップ			0				0	0
	発表力			0				0	0
	学修に取り組む姿勢			0				20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	地域福祉という考え方 地域住民一人ひとりを支える福祉活動	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
2	地域福祉の理解 地域福祉の理解を促進するため動画を視聴し、解説講義	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
3	地域福祉の理念と概念 コミュニケア/ノーマライゼーション/ソーシャルインクルージョン/協働/エンパワメント/アドボカシー/地域自立生活	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
4	地域福祉計画の理解 地域福祉計画のとらえ方やプロセス 地域福祉活動の実際	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
5	地域福祉の歴史と展開(本邦を中心として) 地域福祉に関わる法・制度	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
6	地域福祉に関わるサービスと活動 地域福祉に関わる方法	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
7	地域福祉に関わるマンパワー・機関等の理解 ボランティアコーディネーター/ケアマネジャー/ 地域住民とボランティア/民生委員・児童委員/各種専門職/町内会・自治会/地域包括支援センター/ 社会福祉協議会/NPO	講義	予習：教科書該当部分を読んでおく	90
8	地域福祉論まとめ レポート課題の提示	講義	予習：講義全体を振り返り重要ポイントを伝えるため、事前に第1回から第7回までに学習した内容を復習しておく	90

【科目名】	チーム医療学Ⅱ		【担当教員】	長谷川 裕、藤本 聡、佐々木 理恵子、松林 義人
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	2-14-0430-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	8 コマ	(オフィスアワー)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
【講義概要】				
(目的)				
対象者へのリハビリテーション・サービスを効果的に進めていくためには、医療専門職間の連携の重要性はもちろんであるが、さらに広く保健医療・福祉領域の関連専門職との連携が不可欠である。この科目では、「チーム医療学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、実際の事例を通して専門職間の連携の重要性について理解を深め、今後の臨床活動とのつながりを具体的にイメージできるようになることを目的とする。				
(方法)				
実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。模擬症例(仮想事例)を通して、専攻職業の役割と有効な専門職間連携についての考察を進めるので、学生同士の討論、発表を重視する。				
【一般教育目標(GIO)】				
リハビリテーションサービスを効果的に進めるために、関連する保健・医療・福祉領域の専門職がどのように連携を取ればよいのかを理解する。				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・コマごとの課題に対して、班員と積極的に意見交換できる。 ・コマごとの課題に対して、積極的に文献検索し、討論や発表に活用することができる。 ・講義、討論、文献検索などの一連の作業で得られた内容に自分の考えも添えて、レポートとしてまとめることができる。 ・病期や症状における専攻職業の役割の概要と、多職種との連携の概要を述べることができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
指定しない。				
【参考書】				
特に指定しない。 必要に応じて資料を配付する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・試験ならびに試験に準ずるレポート、討論への積極性、受講態度などを総合して評価する。 ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		30				20	100
評価指標	取り込む力・知識	30		20				5	55
	思考・推論・創造の力	20		10				5	35
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・科目の流れについてのオリエンテーション ・専門職連携の実際例から学ぶ －災害時の専門職連携（その1）－	・講義 ・討論 (担当：藤本)	・リハ専門職、関連専門職について確認する。 ・討論のまとめをする。	20分 20分
2	・専門職連携の実際例から学ぶ －災害時の専門職連携（その2）－	・講義 ・討論 ・発表 (担当：藤本)	・新聞から災害時の連携に関する記事を探す。 ・災害時の専門職連携についてまとめる。	30分 20分
3	・専門職連携の実際例から学ぶ －提示症例に対する援助・支援、連携を考察する（その1；診療現場）－	・講義 ・討論 ・発表 (担当：長谷川)	・保健・福祉領域を含めた専門職を幅広く調べる。 ・症例に対する連携をまとめる。	20分 20分
4	・専門職連携の実際例から学ぶ －提示症例に対する援助・支援、連携を考察する（その2；訪問支援）－	・講義 ・討論 ・発表 (担当：長谷川)	・前回の連携について確認する。 ・症例に対する連携をまとめる。	10分 20分
5	・比較的若年者（壮年期）の急性期・回復期におけるチーム連携のための方策を考える。	・講義 ・討論 ・発表 (担当：佐々木)	・急性期・回復期について確認する。 ・連携についてまとめる。	20分 30分
6	・高齢者を取り巻く医療・福祉の現状を学び、高齢者に対する専門職連携を深めるための方策を考える。	・講義 ・討論 ・発表 (担当：佐々木)	・高齢者が置かれている医療・福祉の現状についてまとめる。 ・連携の方策についてまとめる。	30分 30分
7	・病院や施設における専門職連携の実際について知る。 －足を運んでの調査について考える－	・調査方法、調査内容などについての討論 (担当：松林)	・調査対象施設の選定 ・調査についてのまとめ	30分 30分
8	・終末期を生きる方々と家族を支える専門職連携を考える。	・講義 ・討論 ・発表 (担当：松林)	・終末期医療の現状について調べる。 ・連携についてまとめる。	30分 30分

【科目名】 認知症		【担当教員】 伊林 克彦
【授業区分】 専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】 2-14-0440-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 8コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜 13:30～16:00
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件) この科目は1年次の大脳の働きや病態についての知識が必要とされます。		
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 変性疾患や脳血管障害の知識が必須ですのでよく予習を行ってください。 試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。		
【講義概要】		
(目的) 認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。 当該科目と学位授与方針等との関連性：S-3		
(方法) 座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。		
【一般教育目標(GIO)】 高齢化社会に伴い増加し続ける認知症患者のために医療人として何ができるかを知り、当該疾患の病態をできるだけ詳しく把握する。		
【行動目標(SB0)】 認知症のタイプや症状について説明できる。 認知症の中核症状と周辺症状の違いについて説明できる。 認知症者に対するトレーニング法について実践できる。		
【教科書・リザーブドブック】 伊林克彦 著・「認知症を知る」 考古堂書店、2011年 ¥1,500		
【参考書】 田郁代 他著・「高次脳機能障害学」 医学書院、2009年 ¥4,725		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	認知症とは	講義	復習	30分
2	認知症になる原因は	講義	復習	30分
3	どのようなタイプの認知症があるのか	講義	復習	30分
4	認知症者の心の内側は	講義	復習	30分
5	認知症をどのような方法でとらえるのか	講義	復習	30分
6	認知症者の脳の画像は	講義	復習	30分
7	認知症者の中核症状と周辺症状とは	講義	復習	30分
8	認知症の治療法	講義	復習	30分

【科目名】	薬理学		【担当教員】	桑島 治博
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	kuwajima@ngt.ndu.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 来校時の授業終了後に対応します。
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
臨床で患者に投与される薬物についての基礎知識となる科目です。 解剖学および生理学の知識を復習しておいてください。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
受講前に教科書を必ず読んでわからない言葉などを予習をしておいてください。 (フィードバック方法) 最終コマ講義の際に課題レポート演習問題の模範解答を、定期試験終了後に定期試験の模範解答を配布してフィードバックする。				
【講義概要】				
(目的)				
リハビリテーション分野において必要となる様々な病態、および健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。リハビリテーション分野において、必要となる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。				
(方法)				
教科書と配付資料を用いて、リハビリテーションに関わる内容を中心に講義を行う。				
【一般教育目標(GIO)】				
将来、医療現場においてコメディカルとして参画するために、各疾患で適用される薬物と生体との相互作用を学び、薬物治療の基本原則を理解する。				
【行動目標(SBO)】				
①用量と薬理作用の関係を説明する。 ②薬物の作用機序を説明する。 ③各ライフステージにおける薬物動態を説明する。 ④薬物の副作用・有害作用を説明する。 ⑤各疾患の薬物療法で使用される薬物の種類、作用機序、副作用を説明する。				
【教科書・リザーブドブック】				
イラストで理解するかみくだき薬理学 南山堂 ¥2,300				
【参考書】				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は本学学則規定GPAに従う。 ・成績評価は期末試験および課題レポート点により総合的に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	80		10					90
	思考・推論・創造の力			5					5
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	薬理学の基礎知識(1)	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	30
2	薬理学の基礎知識(2)	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	30
3	末梢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	30
4	中枢神経に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	30
5	心臓・血管・血液に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	30
6	呼吸器・消化器・物質代謝に作用する薬物	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	30
7	化学療法(感染症・悪性腫瘍)に用いる薬物 (1)	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	30
8	化学療法(感染症・悪性腫瘍)に用いる薬物 (2) 漢方薬	講義	教科書を一読し、判らない語句を調べておく。	30

【科目名】	生化学		【担当教員】	山村 千絵
【授業区分】	専門基礎分野(リハビリ関連科目)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択 yamamura@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	(オフィスアワー) 月～金 9:30～18:00 の間の在室時	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>生化学の知識を基礎から発展的、臨床的な内容まで、体系的に学べる構成とする。生体の正常なしくみ・機能の破綻した状態である病気を正しく理解するために、生化学は不可欠である。しかも、病気には、通常、特有の生化学的異常という側面があり、その理解なくして、患者さまへの多角的なアプローチ、より良い援助を行うことは難しい。本講義の受講者には、生化学の中でも、代謝や代謝異常に強い興味を持ち、深く学びたいという態度を持ち続けることが求められる。受講者は、事前に予習をしたり、これまでの知識を整理したりして、周辺領域についての予備知識を持って、毎回の講義に臨んでほしい。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>上記に述べたとおり、毎回の講義の前までに、少なくとも、該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしてから、講義に臨むこと。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>生化学は生命現象を科学的に解釈する学問であり、生理学や分子生理学を含めた他の多くの学問の基礎的立場にある。本講義では、とりわけ、リハビリテーション医療に必須な生化学の知識について修得する。 当該科目と学位授与方針との関連性; A-3</p>				
(方法)				
<p>本講義では、細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能、生体物質の代謝とその調節、代謝の異常、遺伝子の構造と発現調節について解説する。主として教科書と配布資料を使用して講義を行う。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士並びに心理専門職として従事する上で、必要となる生化学の知識を中心に修得し、発展的な内容についても理解する。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能について説明できる。 ・生体物質の代謝とその調節について説明できる。 ・代謝の異常について説明できる。 ・遺伝子の構造と発現調節について説明できる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
三輪一智他「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(2) 生化学(第13版)」医学書院 2014年 ¥2,376				
【参考書】				
なし				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 試験80% レポート20%の割合で総合的に評価を行い100点満点で60点以上を合格とする。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	80		5					85
	思考・推論・創造の力			10					10
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			5					5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	生体を構成する物質 ●細胞の構造と機能	講義	予習： 該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習： 講義ノートを整理する。	60分
2	生体を構成する物質 ●糖質 ●脂質 ●タンパク質 ●核酸	講義	予習： 該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習： 講義ノートを整理する。	60分
3	生体を構成する物質 ●水と無機質 ●血液と尿 ●ホルモンと生理活性物質	講義	予習： 該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習： 講義ノートを整理する。	60分
4	生体内の物質代謝 ●代謝 ●酵素 ●ビタミンと補酵素	講義	予習： 該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習： 講義ノートを整理する。	60分
5	生体内の物質代謝 ●糖質代謝 ●脂質代謝 ●タンパク質代謝 ●核酸代謝	講義	予習： 該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習： 講義ノートを整理する。	60分
6	代謝の異常 ●骨粗しょう症 ●糖尿病（糖質代謝異常） ●脂質異常症（脂質代謝異常） ●高尿酸血症・痛風（核酸代謝異常）	講義	予習： 該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習： 講義ノートを整理する。	60分
7	代謝の異常 ●先天性代謝異常症 ●その他の代謝異常疾患	講義	予習： 該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習： 講義ノートを整理する。	60分
8	遺伝子の構造と発現調節 ●複製・転写・翻訳 まとめ	講義	予習： 該当する教科書の範囲を熟読し、理解できた部分と理解が難しい部分を明らかにしておく。 復習： 講義ノートを整理する。	60分

【科目名】	心理測定法	【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門基礎分野(心理関連科目)	【授業コード】	2-14-0485-0-3
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ
【注意事項】		(メールアドレス) miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
(受講者に関わる情報・履修条件)			
<p>※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で医師の指示の下、言語・高次脳機能障害や精神機能障害等の評価に従事してきた経験から、言語及び臨床心理・神経心理検査等の数値が意味するものについて講じます。本科目の内容は、種々の心理テスト実施法ではなく、心理学で用いられている基本的な統計手法の知識、つまりいろいろな心理事象の数量的記述の基本的な考え方を学んでいきます。</p> <p>※言語聴覚学専攻の学生にとっては、国家試験出題領域の必須科目に指定されています。</p>			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
<p>講義資料は全受講生に配布します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照してください。講義時間内で随時、簡単な実験及び基本的な心理統計処理を演習形式で実施して、理解を深めていきます。この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。この科目の学修には統計学の基本的知識が必須ですので、よく復習しておいてください。試験結果・レポート・授業で実施した実験/心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p>			
【講義概要】			
(目的)			
<p>心理学における数量の性質を理解し、目的に合致したデータ収集法及び適切なデータ解析法を学ぶ。講義および演習を通じて、1) 科学的手法に基づいてデータを収集するためにはどのような測定が必要となるのか、2) その得られたデータに対してどのような統計的処理が適用可能であるのか等を学ぶことを目的とする。当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-3, O-3, S-1, R-1</p>			
(方法)			
<p>心理学で用いられている実証的な研究方法について紹介していく。人間の行動・態度・人格を計量的に測定するとはどういうことなのかを具体的に概説し、さらに臨床現場で一般的に用いられている検査法の基本についても説明し、得られたデータの意味を正しく解釈できるように進めていく。毎回、各手法を実際に体験学習して、その理解を深めていく。ST専攻の学生には、国家試験関連問題を課して、キーワードの理解を深めていく。</p>			
【一般教育目標(GIO)】			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 心理学で用いられる測定法や評価法に関する基本的な知識を身につける。 2) 臨床現場で用いられる種々の検査法における数量的特性について理解する。 3) 心理学的データの基本的な扱い方及び解釈を習得すると同時に、その限界についても知る。 			
【行動目標(SBO)】			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業に毎回出席し、与えられた課題に主体的に取り組める。 2) 心理測定法の特徴を理解し、どのような場合にどの検査を用いたらよいかを適切に選択できる。 3) 科学的(客観性、再現性のある)手法に基づくデータ収集法を学ぶ。 4) 得られたデータに対してどのような統計的処理が適用可能であるのかを理解できる。 			
【教科書・リザーブドブック】			
<p>特に指定せず。原則、毎回プリントを配布します。言語聴覚学専攻の学生は、「言語聴覚士国家試験出題基準」の「V心理学_2心理測定法」のキーワードを随時確認すること。</p>			
【参考書】			
<ol style="list-style-type: none"> 1) 山田弘幸(編・著) / 言語聴覚士のための心理学: 第3章「心理学的測定」 / 医歯薬出版 / 定価 4,320円(税込) 2) 大山正他著 / コンパクト心理学ライブラリ 12「心理学研究法」 / サイエンス社 / 定価 2,310円(税込) 3) 市川伸一編著 / 新心理学ライブラリ 13「心理測定法への招待」 / サイエンス社 / 定価 2,835円(税込) 			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。心理測定法の基本知識につき、定期試験を実施する。出席点は評価に含みません。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	20			30			100
評価 指標	取り込む力・知識	20	20						40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ					10			10
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	心理測定法とは	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
2	測定の水準と変数 データ収集法	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
3	基礎的な心理統計Ⅰ 記述統計量：代表値と散布度	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
4	基礎的な心理統計Ⅱ 推測統計：母集団と推定 確率分布と正規分布	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
5	基礎的な心理統計Ⅲ 関係の測度 (散布度と相関)	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
6	基礎的な心理統計Ⅳ 統計的仮設検定 (統計的有意性と偶然) 平均の差の検定	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
7	テスト理論Ⅰ 歴史的背景	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20
8	テスト理論Ⅱ 信頼性と妥当性 「標準テスト」の意味	講義 一部演習	復習 (演習課題の整理)	20

9	テスト理論Ⅲ 基準と換算点 「IQ数値」の評価法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
10	精神物理学的測定法Ⅰ 刺激閾、弁別閾、主観的等価点	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
11	精神物理学的測定法Ⅱ 調整法、極限法、恒常法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
12	精神物理学的測定法Ⅲ 恒常誤差：測定値の誤りと偏り	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
13	尺度構成法Ⅰ 直接法：マグニチュード推定法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
14	尺度構成法Ⅱ 間接法：評定尺度法	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20
15	まとめ 国試過去問に見る「心理測定法」を説明し、 要点（キーワード）を整理する。	講義 一部演習	復習（演習課題の整理）	20

【科目名】		認知心理学		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門基礎分野(心理関連科目)	【授業コード】	2-14-0490-0-3	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー)	月～金12:40-13:30, 他研究室在室時
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。STとして医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、人の感覚・知覚及び認知・思考の機序とその障害について講じていきます。</p> <p>「認知心理学」には、感覚・知覚・判断・記憶・言語理解等のさまざまな要素が包括されています。</p> <p>リハビリテーション領域におけるこれらの機能が障害された方々への支援を実施するための基礎知識となります。</p> <p>ST専攻の学生にとっては必修科目であり、言語聴覚士国家試験出題基準での指定科目です。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。</p> <p>他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。</p> <p>レポート、試験結果、及び授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p> <p>資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。</p> <p>授業中に、随時、テーマと関連した実験演習及び視聴覚教材の視聴を実施していきます。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>①人の感覚・知覚等の機序及びその障害と、②人の認知・思考等の機序及びその障害について学びます。</p> <p>人間の認知情報処理過程（感覚・知覚・認知、注意、記憶、思考など）について、そのメカニズムを神経生理学及び行動科学の側面から概説していきます。また、その障害についても説明し、視聴覚教材を用いて実例から学び、その支援法を考えていきます。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性；A-3, P-2, O-3, S-2, R-1</p>					
(方法)					
<p>講義と演習ですすめていく。</p> <p>障害については、講義のみでなく、視聴覚教材を用いていく。</p> <p>可能な限り、行動科学のみでなく、神経生理学的視点からの知見を根拠に説明していく。</p> <p>毎回、資料としてプリントを配布する。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なデモンストレーションを通して、人間の認知的特性を体系的、体験的に学ぶ。 ・認知の障害について理解する。 					
【行動目標(SBO)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・人間の認知情報処理過程についての基本的知識を習得する。 ・各講義で説明した認知心理学のトピックについて多角的に考察することができる。 ・ST国家試験過去問に対応できるだけの知識を身につける。 ・認知の障害に対して、認知心理学の視点から考察し、適切な支援につなげることができる。 					
【教科書・リザーブドブック】					
大山正編著 『実験心理学』（コンパクト新心理学ライブラリー16）サイエンス社 1,850円+税					
【参考書】					
<p>森 敏昭・井上 毅・松井孝雄 『グラフィック認知心理学』 サイエンス社 2400円+税</p> <p>行場次朗・箱田裕司編 『知性と感性の心理学：認知心理学入門』 福村出版 2700円+税</p> <p>井上毅・佐藤浩一編 『日常認知の心理学』 北大路書房 3400円+税</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	感覚 I 感覚の種類、感覚の範囲と感度	講義 一部演習	復習 (要点の整理)	15
2	感覚 II 感覚の物理量と心理量 感覚の順応・対比・加重	講義 一部演習	復習 (要点の整理)	15
3	知覚・認知 I 色彩知覚、奥行き知覚、図と地	講義 一部演習	復習 (要点の整理)	15
4	知覚・認知 II 運動の知覚、知覚の恒常性、運動の協応	講義 一部演習	復習 (要点の整理)	15
5	知覚・認知 III 認知地図、対人認知、感覚遮断 視知覚・認知の障害とその支援	講義 一部演習	復習 (要点の整理)	15
6	知覚・認知 IV 注意、認知の枠組み 注意障害とその支援	講義 一部演習	復習 (要点の整理)	15
7	まとめ 国試過去問にみる「感覚・知覚・認知」	講義 一部演習	第1～6回目までの知識の整理	30
8	記憶 I 記憶過程、記憶の分類、短期記憶、 ワーキングメモリ	講義 一部演習	復習 (要点の整理)	15

9	記憶Ⅱ 長期記憶、顕在記憶・潜在記憶、展望記憶	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
10	記憶Ⅲ 忘却と記憶の変容、ヒューマンエラー 記憶障害とその支援	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
11	まとめ 国試過去問にみる「記憶」	講義 一部演習	第8～10回目までの知識の整理	30
12	思考Ⅰ 演繹的推論、帰納的推論	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
13	思考Ⅱ 問題解決 思考障害とその支援	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
14	言語 言語使用、言語獲得、言語と思考 言語障害とその支援	講義 一部演習	復習（要点の整理）	15
15	認知の障害とリハビリテーション まとめ 国試過去問にみる「思考」	講義 一部演習	第12～15回目までの知識の整理	30

【科目名】	学習心理学		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門基礎分野(心理関連科目)	【授業コード】	2-14-0495-0-3	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 月～金12:40-13:20, 他研究室在室時
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、人の行動が学習により変化する過程及び言語習得の機序について講じます。人は生をうけて生涯を終えるまでさまざまな行動を学習していきます。学習心理学では、これら行動と認知の基本的なメカニズムを概説していきます。</p> <p>特に、将来臨床現場で活躍することを希望する場合には受講していただきたいと思います。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。講義後にレポートを課す場合があります。また、心理テストも授業時間内に随時実施していきます。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>①人の行動が変化する過程、及び②言語の習得における機序を学びます。ヒトは、誕生から死に至るまでさまざま行動を学習し、臨機応変に変化させていきます。本講義を通して、学習心理学の基本的理論と知見について学び、学習理論を心の支援に応用する考え方を理解していきます。また、ヒトは言語で他者とのコミュニケーションを交わしています。この言語習得のメカニズムを脳科学の観点からも学び、言語障害に対する基礎的支援法を実践できることを目的とします。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性; A-2, P-2, O-1, S-2, R-1</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。毎回試料の配布を行い、参考文献を紹介する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>学習の基本原理を学び、動物及び人間の行動の基盤には学習のメカニズムが機能していることを理解する。言語習得の基本プロセスと言語の機能(役割)を理解する。学習の障害、言語障害の機序を学び、適切な支援ができる。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>人間の行動は変化することを説明できる。 人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることを説明できる。 学習の原理を日常生活場面や将来の臨床場面で応用していくことができる。 障害に対して適切な支援ができる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
グラフィック学習心理学：行動と認知／山内光哉・春木豊(編著)／サイエンス社／¥2,677(税込)				
【参考書】				
<p>学習心理学への招待(新心理学ライブラリ)／篠原彰一著／サイエンス社／¥2,520 メイザーの学習と行動／ジェームズ E メイザー(著)／二瓶社(2008/06)／¥4,200</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70				30			100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20				10			30
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢	10				20			30

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	学習とは何か ・学習研究の始まりと方法論 行動主義と認知論 古典的条件づけ ・条件づけの典型例 条件刺激と無条件刺激	講義 一部演習	指定教科書p. 1-14 指定教科書p. 15-24	20
2	古典的条件づけ ・行動の獲得と消去 汎化と弁別	講義	指定教科書p. 24-35	20
3	古典的条件づけ ・恐怖の条件づけ 実験神経症 行動療法 古典的条件づけのまとめ	講義	指定教科書p. 36-42	20
4	オペラント条件づけ ・条件づけの典型例 オペラント条件づけの型	講義	指定教科書p. 43-64 指定教科書p. 149-154	20
5	オペラント条件づけ ・オペラント条件づけによる行動の獲得と消去	講義	指定教科書p. 64-74	20
6	オペラント条件づけ ・汎化と弁別 オペラント条件づけのまとめ	講義	指定教科書p. 74-92	20
7	社会的学習 ・社会的学習とは何か 模倣学習 観察学習	講義	指定教科書p. 125-134	20
8	社会的学習 ・攻撃行動 罰の効果 いじめの発生	講義	指定教科書p. 134-144	20

9	社会的学習 ・自己効力感 (セルフ・エフィカシー) 社会的学習のまとめ	講義 一部演習	指定教科書p. 144-148	20
10	技能学習 ・学習曲線 結果の知識 練習条件	講義 一部演習	指定教科書p. 93-102	20
11	技能学習 ・技能の記憶 技能の転移 技能学習のまとめ	講義	指定教科書p. 102-124	20
12	言語獲得と概念過程 ・言語の獲得 ・言語と概念形成	講義	指定教科書p. 175-190	20
13	概念過程と言語獲得 ・言語と思考 ・言語と脳機能	講義	指定教科書p. 184-199	20
14	言語障害への支援 ・失語症 ・発達障害	講義 ビデオ教材使用		20
15	問題解決と推理 学習理論の医療・福祉への応用 まとめ	講義	指定教科書p. 149-174	20

【科目名】	音声学		【担当教員】	氏平 明
【授業区分】	専門分野(言語聴覚障害学)	【授業コード】	5-27-1070-1-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	http://ujihira.my.coocan.jp
【単位数】	2	【コマ数】	15 コマ	(オフィスアワー) 来学時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
言語学, 音響学の単位を取得していること				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
予習や独学は不可能です。講義中に内容を理解し, 自分で内省する。そして学習した発音を, 自分の発音として内省を交えながら学習したことを復習する。期末試験前に総復習をする。 定期試験、再試験は必ず模範解答を付けて本人に返却し、自身の間違いを修正できるようにする。				
【講義概要】				
(目的)				
言語のための発音がどのようにして作られるかを, 自分の発音を通して, そのメカニズムを理解する。そして自分の発音を国際音声記号で転写する能力とその発音の背景と理論を通して, 発音の生成を記述する能力を培う。				
(方法)				
前半は教科書を使用するが講義中心ではなく, 一人一人の発音の確認を通して国際音声記号を身に付けていく。後半は音声単位, 音韻単位を基に韻律が音声の生成にどのように関係しているかを音韻論として学ぶ。音韻論は理解しやすいようにプリント資料を使う。				
【一般教育目標(GIO)】				
音声学の基礎を, 内省と実践, そして背景の音韻論を通して身に付ける。				
【行動目標(SB0)】				
自分の発音の分析から他者の発音を対照させ、音声とその仕組みについて考える能力を養う。				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書は齊藤純男著『日本語音声入門』改訂版, 三省堂 音声学の前半は教科書を批判的に用いて, 自分の発音と比べていく。後半の音韻論は20~30ページのハンドアウトを配布する。ハンドアウトは主にキーワードの項目中心なので, 授業を聞いて内容を自分で書き込んでいく。				
【参考書】				
『日本語の音声』 窪菌晴夫, 岩波書店 『音節とモーラ』 窪菌晴夫, 本間猛, 研究社				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
集中講義なので最終試験成績と出席率で判断する 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		99						1	100
評価 指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	25							25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力	25							25
	学修に取り組む姿勢	9						1	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	音声学と音韻論：発話産出システム	講義	復習必須	30分
2	音声生成のメカニズム：調音のシステム	講義	復習必須	30分
3	子音と母音：その定義とまとまりの原理	講義	復習必須	30分
4	子音：破裂音，鼻音，弾き音，各調音の位置	講義・実践	復習必須	30分
5	子音：摩擦音，接近音，側面音，各調音の位置	講義・実践	復習必須	30分
6	母音：母音の弁別的要件，母音の種類	講義・実践	復習必須	30分
7	日本語の音声：そのシステム：有標と無標	講義・実践	復習必須	30分
8	日本語の音声：不規則な50音図	講義・実践	復習必須	30分

9	日本語の音声：例外的な音声と注意事項	講義・実践	復習必須	30分
10	音韻論 音声の最小単位	講義・実践	復習必須	30分
11	音韻論 音韻素性	講義	復習必須	30分
12	音韻論 プロソディ；音節，モーラ，フット	講義・実践	復習必須	30分
13	音韻論，リズムの生成，アクセント	講義	復習必須	30分
14	音韻論 方言・アクセントとイントネーション	講義	復習必須	30分
15	音声のIPA聞き書き演習	演習	復習必須	30分

【科目名】 高次脳機能障害学各論		【担当教員】 伊林 克彦	
【授業区分】 専門分野(失語・高次脳機能障害学)	【授業コード】 5-28-1095-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	ibayashi@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 2	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 火曜～金曜 13:30～16:00	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件) 1年次の中樞神経系に関わる解剖学や神経学の知識が必要とされます。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 2年次に学んだ高次脳機能障害が、基本的にどのような疾患であるか予備知識として十分に把握しておく必要があります。 試験・レポートのフィードバック方法：試験結果を返却する際により学んで欲しい点、当該科目と関連領域での専門性をより高めることなどについてフィードバックします。			
【講義概要】			
(目的) 大脳の器質的疾患に伴って現れ易い特異な高次脳機能障害について学ぶ。また、このような障害と、聴覚、視覚、体性感覚における認知の障害や行為の障害が、日常生活上どのような影響をもたらすか理解を深める。さらに、これらの症状に対する評価、分類、訓練法などを習得し、実践に役立つ知識を身に付ける。 当該科目と学位授与方針等との関連性：S-3			
(方法) それぞれの高次脳機能障害に対する理解を深めた上で、実習前の授業として各種検査の評価法も学ぶ。			
【一般教育目標(GI0)】 3年次の評価実習および4年次の総合実習で行う当該科目の各種検査に対応するため、主にグループにて必要な技能を習得する。			
【行動目標(SB0)】 高次脳機能障害に対する、評価、分類、訓練法などが実践できる。			
【教科書・リザーブドブック】 藤田郁代 他著・「高次脳機能障害学」医学書院、2009年 ¥4,725			
【参考書】 伊林克彦 他著・「言語障害と画像診断」西村書店、2005年、¥3,800 石合純夫・「高次脳機能障害」医歯薬出版株式会社、2005年、¥4,200			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 出席点は評価に含みません。 評価は、講義終了後の筆記試験にて行う。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	病態認知と行為の障害	講義	2年次に行った高次脳機能障害概論の復習	30分
2	記憶の障害	講義	2年次に行った高次脳機能障害概論の復習	30分
3	前頭葉と高次脳機能障害	講義	2年次に行った高次脳機能障害概論の復習	30分
4	失算 脳梁離断症状	講義	2年次に行った高次脳機能障害概論の復習	30分
5	右半球の高次脳機能障害	講義	2年次に行った高次脳機能障害概論の復習	30分
6	高次脳機能障害と画像診断(1)	講義	2年次に行った高次脳機能障害概論の復習	30分
7	高次脳機能障害と画像診断(2)	講義	2年次に行った高次脳機能障害概論の復習	30分
8	視覚認知障害	講義	2年次に行った高次脳機能障害概論の復習	30分

9	聴覚認知障害	講義	2年次に行った高次脳機能障害概論の復習	30分
10	DVDによる高次脳機能障害（職場復帰）	講義	2年次に行った高次脳機能障害概論の復習	30分
11	高次脳機能障害の評価（1）	実習	検査を繰り返して行う（復習）	60分
12	高次脳機能障害の評価（2）	実習	検査を繰り返して行う（復習）	60分
13	高次脳機能障害の評価（3）	実習	検査を繰り返して行う（復習）	60分
14	認知リハビリテーション	講義	高次脳機能障害の評価3コマの復習	30分
15	まとめ	講義	これまでの講義の復習	30分

【科目名】 高次脳機能障害実習		【担当教員】 佐藤 厚
【授業区分】 専門分野(失語・高次脳機能障害学)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 通年(前期)	【選択必修】 必修	a. satou@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 23	(オフィスアワー) 平日12:40~13:30 (火曜除く)
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害学概論・高次脳機能障害学各論で学んだ知識を基に、講義を進めるため復習しておくこと。 ・遅刻、欠席、早退は学則に従う。 		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
<ul style="list-style-type: none"> ・各講義の冒頭に小テストを行い、その点数も成績に反映するため、事前に連絡がない場合またはやむをえない事情を証明できない遅刻・欠席によって小テストを受けられなくても点数を与えない。 ・検査や訓練の演習を交え講義を進めるが、講義・演習中の私語は成績に反映させる。 ・実際に、検査を全員の前で行ってもらうこともあるため、集中して取り組むこと。 ・試験の答案はコピーを返却する 		
【講義概要】		
(目的)		
<p>失語症、高次脳機能障害とその症状、および原因となる種々の領域との関連を理解したうえで、適切な訓練を選択し、訓練計画を立てられることは臨床学上なくてはならない重要な技能であるため、失語症、高次脳機能障害領域の評価法、訓練法について理解する。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性：S-1</p>		
(方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ・評価バッテリーを用いての相互演習を交え、失語症、高次脳機能障害領域に対する評価法を学ぶ。 ・症例を通して、評価、訓練計画立案、訓練実施の一連の流れを学ぶ。 		
【一般教育目標(GIO)】		
<ul style="list-style-type: none"> ・失語症、高次脳機能障害とその症状、および原因となる種々の領域との関連を理解したうえで、適切な訓練を選択し、訓練計画を立てられる。 		
【行動目標(SB0)】		
<ul style="list-style-type: none"> ・症例に適切な評価を行い、適切な訓練計画立案を行うことができる。 		
【教科書・リザーブドブック】		
藤田郁代監修「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学第2版」医学書院		
【参考書】		
石合純夫：高次脳機能障害学第2版、医歯薬出版		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テスト(20%)、レポート(10%)、その他(受講態度)(10%)、試験成績(60%)で評価する。 ・その他(受講態度)(10%)については、注意1回につき1点ずつ減ずる減点方式とする。 		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	20	10				10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	20	5				10	95
	思考・推論・創造の力			5					5
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	高次脳機能障害学実習概論 高次脳機能障害の概要、評価の目的を学ぶ	講義	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
2	検査実習(初回評価関連) 情報収集、スクリーニング、意識障害	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
3	検査実習(注意障害) 標準注意検査法、TMT、かなひろいテスト	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
4	検査実習(視空間認知障害) BIT	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
5	検査実習(認知面の障害) 標準高次視知覚検査	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
6	検査実習(行為面の障害) 標準高次動作性検査	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
7-8	検査実習(失語症) SLTA、WAB、SALA、失語症構文検査など	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
9-10	検査実習(記憶障害) WMS-R、RBMT、ペントンの視覚記銘検査、三宅式記銘力検査など	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30

11-12	検査実習（前頭葉障害） BADS、WCST、FABなど	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
13-14	検査実習（知能） WAIS-III、RCPM、Kohsなど	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
15-16	検査実習（認知症） HDS-R、MMSE、CDR、CDTなど	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
17	検査実習（画像診断） CT、MRIなど	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
18	訓練法 高次脳機能障害に対する訓練	講義	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
19	文献抄読 論文の症例をとおして、これまでの知識を整理する。	講義、演習	論文内のわからない語句について調べること	30
20	事例検討(paper patient) 実際の症例を通し、評価・訓練の流れを考え、レポートにまとめる	講義、演習	前回の文献抄読を参考にレポートを作成すること	30
21-22	検査実習（まとめ） 評価実習を見据え、これまでに行った検査について復習する	演習	実習に向け、空いた時間には何度も評価の方法などを確認すること。また、実際に検査を行うこと。	30
23	まとめ これまでの総括を行う	講義	テストに向けこれまでの内容を復習すること。	30

【科目名】 高次脳機能障害実習		【担当教員】 佐藤 厚
【授業区分】 専門分野(失語・高次脳機能障害学)	【授業コード】	(メールアドレス)
【開講時期】 通年(後期)	【選択必修】 必修	a. satou@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 23	(オフィスアワー) 平日12:40~13:30 (火曜除く)
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害学概論・高次脳機能障害学各論で学んだ知識を基に、講義を進めるため復習しておくこと。 ・遅刻、欠席、早退は学則に従う。 		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
<ul style="list-style-type: none"> ・各講義の冒頭に小テストを行い、その点数も成績に反映するため、事前に連絡がない場合またはやむをえない事情を証明できない遅刻・欠席によって小テストを受けられなくても点数を与えない。 ・検査や訓練の演習を交え講義を進めるが、講義・演習中の私語は成績に反映させる。 ・実際に、検査を全員の前で行ってもらうこともあるため、集中して取り組むこと。 ・試験の答案はコピーを返却する 		
【講義概要】		
(目的)		
<p>失語症、高次脳機能障害とその症状、および原因となる種々の領域との関連を理解したうえで、適切な訓練を選択し、訓練計画を立てられることは臨床学上なくてはならない重要な技能であるため、失語症、高次脳機能障害領域の評価法、訓練法について理解する。</p> <p>当該科目と学位授与方針等との関連性：S-1</p>		
(方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ・評価バッテリーを用いての相互演習を交え、失語症、高次脳機能障害領域に対する評価法を学ぶ。 ・症例を通して、評価、訓練計画立案、訓練実施の一連の流れを学ぶ。 		
【一般教育目標(GIO)】		
<ul style="list-style-type: none"> ・失語症、高次脳機能障害とその症状、および原因となる種々の領域との関連を理解したうえで、適切な訓練を選択し、訓練計画を立てられる。 		
【行動目標(SB0)】		
<ul style="list-style-type: none"> ・症例に適切な評価を行い、適切な訓練計画立案を行うことができる。 		
【教科書・リザーブドブック】		
藤田郁代監修「標準言語聴覚障害学 高次脳機能障害学第2版」医学書院		
【参考書】		
石合純夫：高次脳機能障害学第2版、医歯薬出版		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・小テスト(20%)、レポート(10%)、その他(受講態度)(10%)、試験成績(60%)で評価する。 ・その他(受講態度)(10%)については、注意1回につき1点ずつ減ずる減点方式とする。 		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		60	20	10				10	100
評価指標	取り込む力・知識	60	20	5				10	95
	思考・推論・創造の力			5					5
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	高次脳機能障害学実習概論 高次脳機能障害の概要、評価の目的を学ぶ	講義	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
2	検査実習(初回評価関連) 情報収集、スクリーニング、意識障害	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
3	検査実習(注意障害) 標準注意検査法、TMT、かなひろいテスト	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
4	検査実習(視空間認知障害) BIT	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
5	検査実習(認知面の障害) 標準高次視知覚検査	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
6	検査実習(行為面の障害) 標準高次動作性検査	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
7-8	検査実習(失語症) SLTA、WAB、SALA、失語症構文検査など	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
9-10	検査実習(記憶障害) WMS-R、RBMT、ペントンの視覚記銘検査、三宅式記銘力検査など	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30

11-12	検査実習（前頭葉障害） BADS、WCST、FABなど	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
13-14	検査実習（知能） WAIS-III、RCPM、Kohsなど	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
15-16	検査実習（認知症） HDS-R、MMSE、CDR、CDTなど	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
17	検査実習（画像診断） CT、MRIなど	講義、演習	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
18	訓練法 高次脳機能障害に対する訓練	講義	次のコマの冒頭に小テストをおこなうため、復習をしておくこと	30
19	文献抄読 論文の症例をとおして、これまでの知識を整理する。	講義、演習	論文内のわからない語句について調べること	30
20	事例検討(paper patient) 実際の症例を通し、評価・訓練の流れを考え、レポートにまとめる	講義、演習	前回の文献抄読を参考にレポートを作成すること	30
21-22	検査実習（まとめ） 評価実習を見据え、これまでに行った検査について復習する	演習	実習に向け、空いた時間には何度も評価の方法などを確認すること。また、実際に検査を行うこと。	30
23	まとめ これまでの総括を行う	講義	テストに向けこれまでの内容を復習すること。	30

【科目名】 言語発達障害学各論 I		【担当教員】 鏡 昭子
【授業区分】 専門分野(言語発達障害学)	【授業コード】 5-29-1115-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 2	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 授業開講日、非常勤控室にて対応
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
グループ発表内容については、当日（発表）までまとめて、学年人数分をコピーし提出すること。 試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。		
【講義概要】		
(目的)		
言語発達障害を引き起こす原因のうち、知的障害や自閉症スペクトラムについて学ぶ。特に自閉症スペクトラムには、自閉症障害、ADHD、LDなど理解しがたい障害が含まれる。これらについて、障害の特性、診断基準、評価方法、訓練目標、訓練方法について学ぶとともに、発達障害児を抱える家族、兄弟、社会集団についても学習する。		
(方法)		
知的障害や自閉症スペクトラムについて基本的事項をグループでのまとめ、講義によって学習し、YTRを参照しながら症状を分析、確認していく。		
【一般教育目標(GIO)】		
<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害と自閉症スペクトラムについて、原因と症状、対応のしかた、評価方法、訓練方法について学ぶ。 ・特に理解し難いといわれる自閉症スペクトラムについてはしっかりと学習する。 		
【行動目標(SBO)】		
<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害と自閉症スペクトラムの概要を説明できる。 ・資料を読んだり映像を見ることで、障害児を総合的な視点からとらえる。 ・適切な評価の方法を身に付ける。 		
【教科書・リザーブドブック】		
言語発達障害学（医歯薬出版）		
【参考書】		
言語発達障害 I． II． III（建帛社）		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ・講義内の発表、グループ発表、実技も含む総合的評価を行う。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は出席点は含みません。 		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70			20	5		5	100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20			5				25
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力								
	学修に取り組む姿勢				5	5		5	15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	言語発達障害とは 言語発達障害 (分類)	講義	発達障害にはどんな障害があるか調べておく	
2	障害支援システム	講義		
3	知的障害① 定義、臨床症状、援助、支援について	グループ発表	担当グループは資料をまとめておく	
4	知的障害② (動画視聴) 定義、臨床症状、援助、支援について	講義		
5	自閉症スペクトラ (自閉症) ① 定義、臨床症状、援助、支援について	グループ発表	担当グループは資料をまとめておく	
6	自閉症スペクトラ (自閉症) Ⅱ 定義、臨床症状、援助、支援について	講義		
7	発達障害のサブタイプ (特異的言語発達障害) 定義、臨床症状、援助、支援について	グループ発表	担当グループは資料をまとめておく	
8	定義、臨床症状、援助、支援について	グループ発表	担当グループは資料をまとめておく	

9	発達障害のサブタイプ（聴覚障害） 定義・臨床症状・援助・支援について	グループ発表	担当グループは資料をまとめておく	
10	評価の方法・目的	講義	正常発達を復習しておく	
11	知的障害の評価、指導目標（動画より） 症例（動画）を通して分析・確認する	グループ発表	正常発達の資料を準備しておく 知的障害の特性を調べておく	
12	知的障害の言語訓練	講義		
13	自閉症スペクトラムの評価、指導目標（動画より） 症例（動画）を通して分析・確認する	グループ発表	正常発達の資料を準備しておく 自閉症スペクトラムの特性を調べておく	
14	自閉症スペクトラムの言語訓練	講義		
15	まとめ	講義		

【科目名】 言語発達障害学各論Ⅱ		【担当教員】 鏡 昭子
【授業区分】 専門分野(言語発達障害学)	【授業コード】 5-29-1120-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	nur-edu@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 授業開講日、非常勤控室にて対応
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
グループ発表内容については、当日(発表)までにまとめて学生人数分をコピーし提出すること。 試験結果・レポートは他に支障のない限り返却します。		
【講義概要】		
(目的)		
言語発達障害の中の運動障害(脳性まひ, 重複障害)について学ぶ。		
(方法)		
脳性まひ、および脳性まひに知的障害や重度の障害をもつ人たちについてグループのまとめと講義から知識を得る。重度の運動障害や言語障害をもつ子どもたちでは、通常の検査ができないことが多いので、周囲の大人の観察力が重要になる。観察力を養うために、症例を提示し、分析、確認していく。		
【一般教育目標(GIO)】		
・脳性まひを中心に、その他の運動障害についても理解を深める。		
【行動目標(SB0)】		
・運動障害と乳幼児の発達に与える影響の大きさを理解する。 ・脳障害に起因する運動障害における運動機能以外の障害を併せて理解する。		
【教科書・リザーブドブック】		
言語発達障害学(医歯薬出版)		
【参考書】		
言語発達障害Ⅰ.Ⅱ.Ⅲ(建帛社)		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
・講義内容の発表、グループ発表、実技も含む総合的評価を行う。 ・成績評価基準は本学学則規程のGP制度に従う。 ・出席点は成績評価に含まれません。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		70			20	5		5	100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	20			5				25
	コラボレーションとリーダーシップ				10				10
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢				5	5		5	15

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	運動発達障害とは 運動発達障害の分類	講義		
2	脳性マヒ 定義、臨床症状、援助・支援について	グループ発表	担当グループは資料をまとめておく	
3	重複障害、重症心身障害（動画視聴） 定義、臨床症状、援助・支援について	グループ発表	担当グループは資料をまとめておく	
4	脳性マヒの評価、指導目標（症例を通して） 症例を通して分析、確認する	グループワーク		
5	脳性マヒの言語訓練	講義		
6	重複障害、重症心身障害の評価、指導目標（症例 を通して） 症例を通して分析、確認する	グループワーク		
7	重複障害、重症心身障害の言語訓練	講義		
8	まとめ	講義		

【科目名】 言語発達障害学実習		【担当教員】 櫻井 晶、佐藤 厚
【授業区分】 専門分野(言語発達障害学)	【授業コード】 5-28-1100-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】 通年(前期)	【選択必修】 必修	佐藤 a.satou@nur.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 23コマ	(オフィスアワー) 佐藤 月～金(火曜除)12:40～13:30
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
<ul style="list-style-type: none"> ・言語発達学、言語発達障害学概論・言語発達障害学各論で学んだ知識を基に、実習を村上市内の子ども発達相談所「はる」で行う。 ・遅刻、欠席、早退は学則に従う。 		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
<ul style="list-style-type: none"> ・学外施設での実習を含むため、遅刻・欠席などは極力しないよう努力する。また、万一遅刻・欠席となる場合は事前の連絡を必ず徹底する。 <p>講義・実習中の態度は成績に大きく反映する。一人の専門職候補生としての自覚を持ち、きちんと実習に望むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に、検査を全員の前で行ってもらうこともあるため、集中して取り組むこと。 		
【講義概要】		
(目的)		
言語発達障害学とその症状、および原因となる種々の領域との関連を理解したうえで、言語発達障害領域の評価法、訓練法について理解する。		
(方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ・評価バッテリーを用いての相互演習を交え、言語発達障害領域に対する評価法を学ぶ。 ・症例を通して、評価、訓練計画立案、訓練実施の一連の流れを学ぶ。 		
【一般教育目標(GIO)】		
<ul style="list-style-type: none"> ・言語発達障害とその症状、および原因となる種々の領域との関連を理解したうえで、適切な訓練を選択し、訓練計画を立てられる。 		
【行動目標(SB0)】		
<ul style="list-style-type: none"> ・症例に適切した評価を行い、適切な訓練計画立案を行うことができる。 		
【教科書・リザーブドブック】		
適宜指示する。		
【参考書】		
適宜指示する。		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・レポート課題、実技、その他(受講態度など)で評価する。 		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40		30		30	100
評価 指標	取り込む力・知識			20		20			40
	思考・推論・創造の力			20		10			30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション及び基礎知識の確認	座学・演習	これまでにやった言語発達領域の学習内容を復習しておくこと。	30分
2	実習に必要な知識の確認	座学・演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分
3	実習に必要な知識の確認	座学・演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分
4	実習に必要な知識の確認	座学・演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分
5	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分
6	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分
7	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分
8	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分

9	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
10	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
11	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
12	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
13	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
14	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
15	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
16	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
17	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
18	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
19	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分

【科目名】 言語発達障害学実習		【担当教員】 櫻井 晶、佐藤 厚
【授業区分】 専門分野(言語発達障害学)	【授業コード】 5-28-1100-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】 通年(後期)	【選択必修】 必修	佐藤 a.satou@nur.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 23コマ	(オフィスアワー) 佐藤 月～金(火曜除)12:40～13:30
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
<ul style="list-style-type: none"> ・言語発達学、言語発達障害学概論・言語発達障害学各論で学んだ知識を基に、実習を村上市内の子ども発達相談所「はる」で行う。 ・遅刻、欠席、早退は学則に従う。 		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
<ul style="list-style-type: none"> ・学外施設での実習を含むため、遅刻・欠席などは極力しないよう努力する。また、万一遅刻・欠席となる場合は事前の連絡を必ず徹底する。 <p>講義・実習中の態度は成績に大きく反映する。一人の専門職候補生としての自覚を持ち、きちんと実習に望むこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に、検査を全員の前で行ってもらうこともあるため、集中して取り組むこと。 		
【講義概要】		
(目的)		
言語発達障害学とその症状、および原因となる種々の領域との関連を理解したうえで、言語発達障害領域の評価法、訓練法について理解する。		
(方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ・評価バッテリーを用いての相互演習を交え、言語発達障害領域に対する評価法を学ぶ。 ・症例を通して、評価、訓練計画立案、訓練実施の一連の流れを学ぶ。 		
【一般教育目標(GIO)】		
<ul style="list-style-type: none"> ・言語発達障害とその症状、および原因となる種々の領域との関連を理解したうえで、適切な訓練を選択し、訓練計画を立てられる。 		
【行動目標(SB0)】		
<ul style="list-style-type: none"> ・症例に適切した評価を行い、適切な訓練計画立案を行うことができる。 		
【教科書・リザーブドブック】		
適宜指示する。		
【参考書】		
適宜指示する。		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。 ・レポート課題、実技、その他(受講態度など)で評価する。 		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40		30		30	100
評価 指標	取り込む力・知識			20		20			40
	思考・推論・創造の力			20		10			30
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション及び基礎知識の確認	座学・演習	これまでにやった言語発達領域の学習内容を復習しておくこと。	30分
2	実習に必要な知識の確認	座学・演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分
3	実習に必要な知識の確認	座学・演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分
4	実習に必要な知識の確認	座学・演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分
5	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分
6	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分
7	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分
8	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合はその予習	30分

9	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
10	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
11	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
12	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
13	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
14	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
15	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
16	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
17	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
18	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分
19	子ども発達支援所での実習 各自での検査準備、検査後のまとめなど	実習、演習	前回内容の復習と課題がある場合は その予習	30分

【科目名】 摂食・嚥下障害学各論		【担当教員】 佐藤 厚	
【授業区分】 専門分野(発声発語・嚥下障害学)	【授業コード】 5-30-1180-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	a. satou@nur. ac. jp	
【単位数】 1	【コマ数】 8コマ	(オフィスアワー) 平日12時40分～13時30分 (火曜除)	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
<p>受講時までには歯・口腔・顎・顔面領域の基本的な構造や機能、および嚥下の仕組みを理解していること。 2年次に履修した摂食嚥下障害学概論の内容を復習しておくこと。 この科目は実務経験者対応科目である。</p>			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
<p>教科書、配付資料、動画ファイルを使用する。 動画ファイルを再生できるパソコンを使用するので各自持参すること。パソコンのないものは事前に相談すること。 摂食嚥下障害学実習と連動する講義である。 試験結果・レポートなどは支障の無い限り返却し、必要に応じて解説する。</p>			
【講義概要】			
(目的)			
<p>言語聴覚士として、人間にとって「食」の持つ意味を広く理解できる。 嚥下造影、嚥下内視鏡画像を解釈し、リハビリテーションの方法を模索することができる。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-3, S-1, S-2, S-3</p>			
(方法)			
<p>座学及び演習方式で講義を進める。 嚥下造影、嚥下内視鏡検査は実際の動画を用いて診断方法を学ぶ。 内容の理解を深めるため、随時グループ討議、発言を求める。</p>			
【一般教育目標(GIO)】			
<p>摂食・嚥下の機能および障害とそのリハビリテーションに関して、幅広い知識を身につけ、臨床へ応用する能力を養う。</p>			
【行動目標(SB0)】			
<ul style="list-style-type: none"> ・人間の食文化に対して言語聴覚士が関与できることを説明できる。 ・嚥下造影の動画を見て問題点を見いだすことができる。 ・嚥下内視鏡の動画を見て明点点を指摘できる。 ・検査結果からリハビリテーションの方法を検討することができる。 			
【教科書・リザーブドブック】			
<p>倉智雅子(編集)「言語聴覚士のための摂食・嚥下障害学」医歯薬出版、2013年。¥4,752</p>			
【参考書】			
<p>藤島一郎 「目でみる嚥下障害(DVD付)嚥下内視鏡・嚥下造影の所見を中心として」2006年 ¥3,672 藤島一郎 「脳卒中の摂食嚥下障害 第2版」医歯薬出版、1998年 ¥4,698</p>			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 出席点は評価に含まれない。 成績は期末試験及び演習での理解度などを総合して評価する。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力	40							40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力							5	5
	学修に取り組む姿勢							5	5

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	摂食嚥下障害を診る視点 姿勢、味、情動、分化、家族という視点	講義	予習・復習を必ず行うこと	30分
2	嚥下造影の診かた1 ・嚥下造影とは ・画像から読み取れるもの	講義・演習	予習・復習を必ず行うこと	30分
3	嚥下造影の診かた2 ・嚥下動態の診かた	講義・演習	予習・復習を必ず行うこと	30分
4	嚥下造影の診かた3 ・嚥下器官の機能の診かた	講義・演習	予習・復習を必ず行うこと	30分
5	嚥下造影の診かた4 ・嚥下造影からリハビリテーションの方法を探る。	講義・演習	予習・復習を必ず行うこと	30分
6	嚥下内視鏡検査の診かた ・嚥下内視鏡で何が見えるか	講義・演習	予習・復習を必ず行うこと	30分
7	嚥下内視鏡検査の診かた2 ・嚥下内視鏡検査の解釈	講義・演習	予習・復習を必ず行うこと	30分
8	まとめ ・これまでの講義のまとめと実習に向けて	講義	予習・復習を必ず行うこと	30分

【科目名】 摂食・嚥下障害学実習		【担当教員】 佐藤 厚、高橋 純子	
【授業区分】 専門分野(発声発語・嚥下障害学)	【授業コード】 5-30-1185-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】 通年(前期)	【選択必修】 必修	a. satou@nur. ac. jp	
【単位数】 1	【コマ数】 23コマ(前後期)	(オフィスアワー) 佐藤 (月～金、火曜日除く)	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>摂食嚥下障害学概論、各論で学ぶ摂食嚥下に関する一通りの知識を有していること。 中枢神経系の理解を深めて望むこと。 この科目は実務経験者対応科目である。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>必ず実習着着用にて受講すること。学生同士で筋や骨格の触察、口腔内の触診なども行う。 資料を随時配布・使用する。 試験結果・レポートなどは支障の無い限り返却し、必要に応じて解説を行う。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>摂食嚥下障害の評価、診断、治療に関する基本技術を学ぶ。 摂食嚥下障害を神経学的、運動学的な視点を含めて総合的に評価できるようにする。 臨床で実際に摂食嚥下障害を有する人に対して、言語聴覚士として必要な治療・ケア技能を一通り経験する。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-3, S-1, S-2, S-3</p> <p>(方法)</p> <p>臨床現場を想定した学生相互実習として講義を進める。 教科書及び配付資料を活用する。 実習を行った内容について、学生同士で練習するなど、理論・技術の復習、定着化を行うこと。</p>			
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>臨床で必要な摂食嚥下障害の評価・治療の基礎を体験することで、学外実習にもつながる臨床力を身につける。</p>			
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>摂食嚥下に関する神経・運動及び嚥下機能の基礎的な評価技術を身につける。 摂食・嚥下のための姿勢管理や福祉用具の使用法について知る。 口腔の診察や口腔ケアの方法を知るとともに、感染予防や小器具の取り扱いに配慮できる。 摂食嚥下障害の間接訓練、直接訓練の基礎的技術を学ぶ。</p>			
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>聖隷嚥下チーム・「嚥下障害ポケットマニュアル 第3版」医歯薬出版、2011年、2,808円</p>			
<p>【参考書】</p> <p>講義中に適宜指示する。</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 評価は実技試験と筆記試験にて行う。 実習に取り組む姿勢も評価対象とする。 出席点は評価に含まれない。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40				40		20	100
評価 指標	取り込む力・知識	20				20			40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	医療ベッドの扱い方 手洗いの基本	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
2	摂食嚥下に関する器官の触察1	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
3	摂食嚥下に関する器官の触察2	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
4	摂食嚥下に関する器官の触察3	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
5	摂食嚥下に関する器官の触察4	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
6	神経所見1	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
7	神経所見2	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
8	神経所見3	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分

9	神経所見4	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
10	ポジショニング1	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
11	ポジショニング2	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
12	頭頸部関節可動域測定	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
13	嚥下機能検査 ・頸部聴診、反復唾液嚥下テスト、水飲みテスト など	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
14	機器を用いた摂食嚥下機能検査1 ・舌圧、口腔内細菌、口腔内水分などの測定	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
15	摂食嚥下障害の治療1 ・リラクゼーション、呼吸ケアなどの徒手的治疗	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
16	摂食嚥下障害の治療2 ・リラクゼーション、呼吸ケアなどの徒手的治疗	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
17	摂食嚥下障害の治療3 ・頭頸部へのアプローチ	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと予習	30分
18	摂食嚥下障害の治療4 ・物理療法、温熱療法	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
19	摂食嚥下障害の治療5 ・代償的アプローチ①	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分

【科目名】	摂食・嚥下障害学実習		【担当教員】	佐藤 厚、高橋 純子
【授業区分】	専門分野(発声発語・嚥下障害学)	【授業コード】	5-30-1185-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	a. satou@nur. ac. jp
【単位数】	1	【コマ数】	23コマ(前後期)	(オフィスアワー) 佐藤 (月～金、火曜日除く)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>摂食嚥下障害学概論、各論で学ぶ摂食嚥下に関する一通りの知識を有していること。 中枢神経系の理解を深めて望むこと。 この科目は実務経験者対応科目である。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>必ず実習着着用にて受講すること。学生同士で筋や骨格の触察、口腔内の触診なども行う。 資料を随時配布・使用する。 試験結果・レポートなどは支障の無い限り返却し、必要に応じて解説を行う。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>摂食嚥下障害の評価、診断、治療に関する基本技術を学ぶ。 摂食嚥下障害を神経学的、運動学的な視点を含めて総合的に評価できるようにする。 臨床で実際に摂食嚥下障害を有する人に対して、言語聴覚士として必要な治療・ケア技能を一通り経験する。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-3, S-1, S-2, S-3</p>				
(方法)				
<p>臨床現場を想定した学生相互実習として講義を進める。 教科書及び配付資料を活用する。 実習を行った内容について、学生同士で練習するなど、理論・技術の復習、定着化を行うこと。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
臨床で必要な摂食嚥下障害の評価・治療の基礎を体験することで、学外実習にもつながる臨床力を身につける。				
【行動目標(SB0)】				
<p>摂食嚥下に関する神経・運動及び嚥下機能の基礎的な評価技術を身につける。 摂食・嚥下のための姿勢管理や福祉用具の使用法について知る。 口腔の診察や口腔ケアの方法を知るとともに、感染予防や小器具の取り扱いに配慮できる。 摂食嚥下障害の間接訓練、直接訓練の基礎的技術を学ぶ。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
聖隷嚥下チーム・「嚥下障害ポケットマニュアル 第3版」医歯薬出版、2011年、2,808円				
【参考書】				
講義中に適宜指示する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 評価は実技試験と筆記試験にて行う。 実習に取り組む姿勢も評価対象とする。 出席点は評価に含まれない。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		40				40		20	100
評価指標	取り込む力・知識	20				20			40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ							10	10
	発表力							10	10
	学修に取り組む姿勢					20			20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	医療ベッドの扱い方 手洗いの基本	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
2	摂食嚥下に関する器官の触察1	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
3	摂食嚥下に関する器官の触察2	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
4	摂食嚥下に関する器官の触察3	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
5	摂食嚥下に関する器官の触察4	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
6	神経所見1	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
7	神経所見2	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
8	神経所見3	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分

9	神経所見4	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
10	ポジショニング1	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
11	ポジショニング2	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
12	頭頸部関節可動域測定	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
13	嚥下機能検査 ・頸部聴診、反復唾液嚥下テスト、水飲みテスト など	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
14	機器を用いた摂食嚥下機能検査1 ・舌圧、口腔内細菌、口腔内水分などの測定	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
15	摂食嚥下障害の治療1 ・リラクゼーション、呼吸ケアなどの徒手的治疗	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
16	摂食嚥下障害の治療2 ・リラクゼーション、呼吸ケアなどの徒手的治疗	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
17	摂食嚥下障害の治療3 ・頭頸部へのアプローチ	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと予習	30分
18	摂食嚥下障害の治療4 ・物理療法、温熱療法	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分
19	摂食嚥下障害の治療5 ・代償的アプローチ①	講義・実技	予習、復習を必ず行うこと	30分

【科目名】 補聴器・人工内耳		【担当教員】 大平 芳則、渡辺 俊雅	
【授業区分】 専門分野(聴覚障害学)	【授業コード】 5-31-1210-0-1	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	ohdaira@nur.ac.jp	
【単位数】 2	【コマ数】 15 コマ	(オフィスアワー) 来学時	
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 授業実施順は、記載順とは異なる可能性があります。 ※この科目は実務経験者対応科目である。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 試験の答えは返却します。 レポート(授業振り返り)の質問は、できる限りその場で(口頭で)返答します。			
【講義概要】 (目的) 補聴器及び人工内耳の基本知識を習得し、フィッティング・マッピング、装用指導等、国家試験に必要な最低限の知識を身につける。 (方法) 補聴器に関する基礎知識、補聴器の適応、フィッティングの基礎知識を理解する。補聴器の基本的機能と基本的形態について理解する。補聴器の操作・性能測定を理解する。補聴器の音響学について学ぶ。イヤモールド概論について耳型作成について学ぶ。人工内耳の構造と機能、マッピングに関する基礎的事項、効果と影響、適応と適応判定に必要な知識を理解する。 基本的には講義だが、耳型彩型については実習を行なう。			
【一般教育目標(GIO)】 ・補聴器に関する基礎知識、補聴器の適応、フィッティングの基礎知識を理解する。 ・人工内耳の構造と機能、マッピングに関する基礎的事項、効果と影響、適応と適応判定に必要な知識を理解する。			
【行動目標(SB0)】 ・補聴器の構造、種類、部品、システムを理解する。・補聴器の性能とその測定法を理解する。・補聴器で使われる信号処理と音の圧縮を理解する。・両耳装用の効用を理解する。・イヤモールドについて理解する。・補聴器の選択とフィッティング理論を理解する。・補聴器装用の評価法がわかる。・フィッティング指導について理解する。・人工内耳の構造、機能、手術の概要を理解する。・人工内耳の適応基準を理解する。・人工内耳マッピングの概要を理解する。・人工内耳の術前、術後評価を理解する。			
【教科書・リザーブドブック】 なし			
【参考書】 山田弘幸 言語聴覚療法シリーズ5 改訂聴覚障害Ⅰ－基礎編 建帛社 2007 2500円＋税 他は授業で紹介する。			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) ・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まれません。 ・授業に取り組む姿勢を重視します。頻繁にごく簡単なレポートを課します。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			50					50

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 補聴器概説：構造、機能、分類、耳栓	講義		
2	補聴器の構成部品： マイク、アンプ、イヤホン、電池	講義		
3	補聴器の構成部品： 耳栓（イヤモールド）の作成法と機能	講義		
4	補聴器の性能と測定： JISの用語、測定される性能と測定方法	講義		
5	補聴器の増幅： 線形増幅 非線形増幅と圧縮比（1）	講義		
6	補聴器の増幅： 非線形増幅と圧縮比（2）	講義		
7	イヤモールド： 彩型実習	実習		
8	イヤモールド： 彩型実習	実習		

9	補聴器のフィッティング（調整と適合）： 適応、機種選択、調整、適合評価	講義		
10	補聴器の両耳装用と保守・点検： 両耳装用の効果 保守と点検のしかた	講義		
11	補聴器の周辺機器と新しい機能： S/N比の改善、FMシステム、テレコイル（磁気ループ）、赤外線システム、ハウリング抑制、雑音抑制、RIC	講義		
12	人工内耳概説： 構造としくみ、対象、人工内耳による聞こえの回復（ビデオ視聴）	講義		
13	人工内耳の適応基準と評価： 成人および小児の適応基準、術前評価、術後評価	講義		
14	人工内耳のマッピング（プログラミング）： パラメータ設定、T/Cレベル測定、マイク感度	講義		
15	人工内耳のその他の話題： 人工内耳の限界、テレメトリ、生活への影響、auditory neuropathyと人工内耳	講義		

【科目名】	聴力検査法		【担当教員】	大平 芳則
【授業区分】	専門分野(聴覚障害学)	【授業コード】	(メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	ohdaira@nur.ac.jp
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 来学時
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
※この科目は実務経験者対応科目である。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
試験の答えは返却します。 レポート(授業振り返り)の質問は、できる限りその場で(口頭で)返答します。				
【講義概要】				
(目的)				
言語障害を取り扱う際、どんな言語障害であれ、聴力はまず最初に考慮すべき問題である。各種の聴力検査について学び、検査について熟知するとともに、言語障害を持つあらゆる人に対して聴力評価を行える臨床力を身につける。				
(方法)				
純音聴力検査、自記オージオメトリ、インピーダンスオージオメトリ、語音聴力検査(語音了解閾値検査、語音弁別検査)、補充(リクルートメント)現象検査、乳幼児聴力検査(B0A、COR、ピープショウテスト、遊戯聴力検査)等について、それらの意義、適応、結果の解釈等について、講義を通じて学習する。				
【一般教育目標(GIO)】				
・各種聴覚検査の意義を理解し、実施手順、検査結果の読み方の基本を習得する。				
【行動目標(SB0)】				
・聴力検査の検査方法およびおおよび検査結果について説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
なし				
【参考書】				
日本聴覚医学会(編) 聴覚検査の実際 南山堂 2009 3400円+税				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。 ・授業に取り組む姿勢を重視します。頻繁にごく簡単なレポートを課します。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			50					50

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 聴力検査の分類と検査音、記録用紙、閾値の決定 方法	講義	配付資料の復習	15分
2	純音聴力検査： 準備と予備検査	講義	配付資料の復習	15分
3	純音聴力検査： 本検査の実施手順、平均聴力	講義	配付資料の復習	15分
4	マスキング： 意義、方法	講義	配付資料の復習	15分
5	語音聴力検査： 語音了解閾値検査、語音弁別検査	講義	配付資料の復習	15分
6	閾値を表す単位： dB SPLとdB HL	講義	配付資料の復習	15分
7	インピーダンスオージオメトリ： ティンパノメトリ、耳小骨筋反射検査	講義	配付資料の復習	15分
8	内耳機能検査： リクルートメント現象 SISI検査、自記オージオメトリ	講義	配付資料の復習	15分

9	内耳機能検査： ABLB、メッツテスト	講義	配付資料の復習	15分
10	他覚的聴力検査： 聴性脳幹反応（ABR）、蝸電図	講義	配付資料の復習	15分
11	他覚的聴力検査： 耳音響放射（OAE）、聴性定常反応（ASSR）	講義	配付資料の復習	15分
12	乳幼児聴力検査： BOA、COR、遊戯聴力検査	講義	配付資料の復習	15分
13	スクリーニング検査： 3歳児健診、新生児聴覚スクリーニング	講義	配付資料の復習	15分
14	補聴器適合検査	講義	配付資料の復習	15分
15	総復習	講義		

【科目名】	聴力検査実習		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門分野(聴覚障害学)	【授業コード】	5-31-1220-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	ohdaira@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	23 コマ	(オフィスアワー) 来学時
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
※この科目は実務経験者対応科目である。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
時間割の組み方によっては、授業内容の順序変更を行なうことがあるかもしれません。				
試験の答案は返却します。				
レポート(授業振り返り)の質問は、できる限りその場で(口頭で)返答します。				
【講義概要】				
(目的)				
言語聴覚士に必要な聴力検査方法のうち、特に純音聴力検査と語音聴力検査について、的確に実施できるようになる。また、自記オーディオメトリー、SISI検査、インピーダンスオーディオメトリーについて検査手順を実際に経験する。				
(方法)				
学生同士で実習を行ない、実施手順を身につける。				
【一般教育目標(GIO)】				
・使用頻度の高い聴力検査について、実習を通じて、臨床現場で対応できる技能を身につける。				
【行動目標(SB0)】				
・純音聴力検査と語音聴力検査が適切に実施できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
なし				
【参考書】				
日本聴覚医学会(編) 聴覚検査の実際 南山堂 2009 3400円+税				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
・成績評価基準は、本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。				
・授業に取り組む姿勢を重視します。頻繁にごく簡単なレポートを課します。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価 指標	取り込む力・知識	50							50
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢			50					50

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 純音聴力検査	講義	ノートの復習	15分
2	純音聴力検査： 実習1	実習		
3	純音聴力検査： 実習2	実習		
4	マスキング	講義	ノートの復習	15分
5	純聴力検査： 実習3	実習		
6	純音聴力検査： 実習4	実習		
7	インピーダンスオージオメトリ	講義	ノートの復習	15分
8	純音聴力検査： 実習5	実習		15分

9	純音聴力検査： 実習6	実習		15分
10	語音聴力検査	講義	ノートの復習	15分
11	語音聴力検査： 実習1	実習		
12	語音聴力検査： 実習2	実習		
13	自記オージオメトリ SISI検査	講義	ノートの復習	15分
14	語音聴力検査： 実習3	実習		
15	語音聴力検査： 実習4	実習		
16	オージオグラムの読み方1	講義	ノートの復習	15分
17	語音聴力検査： 実習3	実習		
18	語音聴力検査： 実習4	実習		
19	インピーダンスオージオメトリ 自記オージオメトリ SISI検査	講義	ノートの復習	15分

【科目名】	音響学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門分野(聴覚障害学)	【授業コード】	5-31-1225-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8 コマ	(オフィスアワー) 火・木曜以外の平日16:50~18:20
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・予習・復讐をしっかりと行うこと。8コマと少ないものの、1コマ1コマ非常に重要なため、欠席しないこと。 ※この科目は実務経験者対応科目である。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
試験結果は他に支障のない限り返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目と学位授与方針等との関連性；S-2 ・本講義では、音響学について基礎的知識を学び、音響学の理解を深めることを目的としている。 				
(方法)				
言葉は耳を通して学び、重要なコミュニケーション手段となっている。将来、リハビリテーションに従事する上でも重要な内容となるため、各領域のトピックを学ぶことにより、音響学を体系的に概説していく。特に、私たちはどのように音/音声を聴いているかなど、実際に学生自身が考え学べるように進めて行く。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚系の機能や、音・音声の知覚に関する基本的な知識を身につける。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・授業に毎回出席し、与えられた課題に主体的に取り組める。 ・各講義で説明したトピックについて説明することができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
吉田友敬 『言語聴覚士の音響学入門』海文堂 (2,600 円+税)				
【参考書】				
B. C. J. ムーア 『聴覚心理学概論』誠信書房 (4,500 円+税)				
今泉 敏著 『言語聴覚士のための音響学』医歯薬出版株式会社 (3,800円+税)				
青木 直史 『ゼロからはじめる音響学』講談社 (2,600円+税)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、定期試験および小テスト点により総合的に評価する。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80	20						100
評価 指標	取り込む力・知識	80	20						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	イントロダクション、音の物理的側面と心理的側面 波の性質：音波の基本的性質：波長、周期、周波数	講義	予習・復習：教科書 P.1~4	45分
2	波の性質：音波の基本的性質：波長、周期、周波数	講義	予習・復習：教科書 P.1~4	30分
3	開管モデルの共鳴 閉管モデルの共鳴：声道/外耳道/ホルマント	講義	予習・復習：教科書 P.10~18	45分
4	閉管モデルの共鳴：声道/外耳道/ホルマント	講義	予習・復習：教科書 P.10~18	45分
5	音の強さの種類と関係：音圧/圧力/音圧比/強さ/ デシベルとパスカルの関係・換算	講義	予習・復習：教科書 P.35 ~47	60分
6	音の強さの種類と関係：音圧/圧力/音圧比/強さ/ デシベルとパスカルの関係・換算	講義	予習・復習：教科書 P.35 ~47	60分
7	音のスペクトル/純音、ノイズ/フーリエ/サウンド スペクトログラム	講義	予習・復習：教科書 P.57 ~88	60分
8	まとめ	講義		

【科目名】	聴覚心理学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門分野(聴覚障害学)	【授業コード】	5-31-1230-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8 コマ	(オフィスアワー) 火・木曜以外の平日16:50~18:20
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。 ・言語聴覚士国家試験に出題される問題を確認しながら講義を行います。 ・この科目は実務経験者対応科目である。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
試験結果は他に支障のない限り返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目と学位授与方針等との関連性；S-2 ・音の心理的側面を学び、言語音や環境音など私たちがどのように音を感じているのかを理解する。 				
(方法)				
スライド中心の講義に加え、実際に「音」がどのように聴こえているのかを体験する機会を設ける。				
【一般教育目標(GIO)】				
音には物理的側面と心理的側面があることを理解する。				
【行動目標(SBO)】				
<p>発せられる音の物理的側面とそれを聞き取る生体側の心理的な聴感覚との関係を学び、私たちが感じている音とは何かを理解していく。</p> <p>音及び聴覚がもつ機能を多方面から考察でき、リハビリテーションに応用できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
吉田友敬 『言語聴覚士の音響学入門』海文堂 (2,600 円+税)				
【参考書】				
<p>聴覚心理学概論／B. C. J. ムーア (著)、大串 健吾 (翻訳)／誠信書房 (1994/04)／¥4,725</p> <p>音のなんでも小事典 (ブルーバックス新書) / 日本音響学会 (編集) / 講談社 (1996/12) / ¥1,155</p> <p>聴覚と音声 / 三浦種敏 (監修) / 電子情報通信学会 (1980/02) / ¥6,291</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、定期試験および小テストにより総合的に評価する。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		80	20						100
評価指標	取り込む力・知識	80	20						100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	音の大きさの知覚 音の強さ・大きさの種類と換算 dB SPL/dB HL/dBSL/Pa フェヒナーの法則/スティーブンスのべき法則/ウェーバーの法則/フォン/ゾーン	講義	予習・復習：教科書 P. 97~118	60分
2	音の強さ・大きさの種類と換算 等ラウドネス曲線と dBHL との関係	講義	予習・復習：教科書 P. 97~118	60分
3	音の高さの知覚 mel/高さ(ピッチ)/オクターブ/場所ピッチ/時間ピッチ	講義	予習・復習：教科書 P. 109 ~118	60分
4	マスキング マスキング量と周波数特性/狭帯域雑音/ 広帯域雑音/臨界帯域/非同時マスキング	講義	予習・復習：教科書 P. 119 ~124	60分
5	両耳聴 加算・融合/方向知覚/MLD (Masking Level Difference) /先行音効果/カクテルパーティ効果	講義	予習・復習：教科書 P. 125 ~136	60分
6	音声知覚 聴覚フィルター/母音・子音の知覚/	講義	予習・復習：教科書 P. 137 ~150	60分
7	音声知覚、サウンドスペクトログラム	講義	予習・復習：教科書 P. 151 ~169	60分
8	まとめ	講義		

【科目名】	基礎実習		【担当教員】
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	5-32-1240-0-1 (メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修 a. satou@nur. ac. jp
【単位数】	1	【コマ数】	20コマ(前後期) (オフィスアワー) 月～金(火曜除く) 12:40～13:30
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
<p>事前に実習に関する情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。 実習を行う際には、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみの学生は実習を認めないことがある。 この科目は実務経験者対応科目である。</p>			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
<p>実習を行ううえで必要な予備知識を備えること。 実習終了後は、グループ毎にまとめを行うため、お互いに協力し合い準備を行うこと。 実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに教員へ連絡すること。 ご協力いただく当事者や家族に対して決して失礼のないように臨むこと 実習中の記録・レポート等については個人情報にあたるため、一括して教員が管理する。</p>			
【講義概要】			
(目的)			
<p>症例と向き合うためには言語聴覚療法実施上の総合的能力を高めなければならない。そのため、基礎実習は患者と直に接するうえで必要なコミュニケーション方法、医療事故対策、感染対策、個人情報の保護の実践について学習する。専攻教員の指導の下、症例に対しインテークやスクリーニング評価を実施し、それらを習得することを目的とする。また、臨床評価実習に向けて、言語聴覚障害の着眼点、レポートの作成についても学習することを目的とする。当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3, S-1, S-2, S-3</p>			
(方法)			
<p>10 コマを学内で開催する地域健康教室にて実際に対象者と接し、実際に評価を行う。その前には学内でオリエンテーション、評価法・内容の検討を行い、実習後には症例をまとめ、症例報告会を実施する。</p>			
【一般教育目標(GIO)】			
<ul style="list-style-type: none"> 臨床で必要な医療的基礎知識を述べることができる。 臨床実習を円滑に行うために必要な知識を述べるができる。 臨床実習を円滑に行うために必要な技術を実践できる。 			
【行動目標(SBO)】			
<ul style="list-style-type: none"> 感染対策・事故防止を実践できる。 デイリーノートと症例報告書の記載方法を実施できる。 言語聴覚士として患者と関わることができる。 			
【教科書・リザーブドブック】			
適宜指示する。			
【参考書】			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
<p>成績評価基準は本学学則規定のG P A制度に従う。 臨床評価実習のG P A、実習中の課題の内容から総合的に評価を行う。 実習中の態度、取り組み方、実習の提出物、臨床能力(症例との関わり、教示の仕方、評価の適切性、評価結果に対する考察)、症例報告内容を総合的に判断し評価する。</p>			

【科目名】	基礎実習		【担当教員】	佐藤 厚
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	5-32-1240-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	a. satou@nur. ac. jp
【単位数】	1	【コマ数】	20コマ(前後期)	(オフィスアワー) 月～金(火曜除く) 12:40～13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>事前に実習に関する情報を収集し、必要な資料等を準備しておくこと。 実習を行う際には、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみの学生は実習を認めないことがある。 この科目は実務経験者対応科目である。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>実習を行ううえで必要な予備知識を備えること。 実習終了後は、グループ毎にまとめを行うため、お互いに協力し合い準備を行うこと。 実習中に事故・事件その他の問題が起きた場合は、直ぐに教員へ連絡すること。 ご協力いただく当事者や家族に対して決して失礼のないように臨むこと 実習中の記録・レポート等については個人情報にあたるため、一括して教員が管理する。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>症例と向き合うためには言語聴覚療法実施上の総合的能力を高めなければならない。そのため、基礎実習は患者と直に接するうえで必要なコミュニケーション方法、医療事故対策、感染対策、個人情報の保護の実践について学習する。専攻教員の指導の下、症例に対しインテークやスクリーニング評価を実施し、それらを習得することを目的とする。また、臨床評価実習に向けて、言語聴覚障害の着眼点、レポートの作成についても学習することを目的とする。当該科目と学位授与方針等との関連性：A-3, S-1, S-2, S-3</p>				
(方法)				
<p>10 コマを学内で開催する地域健康教室にて実際に対象者と接し、実際に評価を行う。その前には学内でオリエンテーション、評価法・内容の検討を行い、実習後には症例をまとめ、症例報告会を実施する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> 臨床で必要な医療的基礎知識を述べることができる。 臨床実習を円滑に行うために必要な知識を述べることができる。 臨床実習を円滑に行うために必要な技術を実践できる。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> 感染対策・事故防止を実践できる。 デイリーノートと症例報告書の記載方法を実施できる。 言語聴覚士として患者と関わることができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
適宜指示する。				
【参考書】				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のG P A制度に従う。 臨床評価実習のG P A、実習中の課題の内容から総合的に評価を行う。 実習中の態度、取り組み方、実習の提出物、臨床能力(症例との関わり、教示の仕方、評価の適切性、評価結果に対する考察)、症例報告内容を総合的に判断し評価する。</p>				

【科目名】	臨床評価実習		【担当教員】	佐藤 厚
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	5-32-1245-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	a. satou@nur. ac. jp
【単位数】	4	【コマ数】	80コマ	(オフィスアワー) 月～金(火曜除く) 12:40～13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>1. この科目を履修するには、それまでの必修科目すべてを修得していること。</p> <p>2. 学外実習を実施するには、学外実習前の実習前試験に合格すること。</p> <p>※この科目は実務経験者対応科目である。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。不適切な身だしなみと判断された学生については実習を認めないことがある。実習終了後は、症例報告会を行うので、必要な要約及び発表スライド等の準備を行うこと。実習中に事故・事件その他問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。</p> <p>実習・発表の結果については随時フィードバックを行い、結果についても説明する。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>臨床評価実習は、学生毎に1施設の医療機関に赴き、臨床実習指導者のもと、症例に即した評価方法の選択、評価手技の実施を行い、評価をもとに抽出された問題点から障害像を把握する過程を学ぶことを目的としている。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性：A-3, S-1, S-2, S-3</p>				
(方法)				
<p>3年次に4週間の日程とし、3週間は医療機関を中心とした施設に出向き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。1週間は学内学習を行い、専任教員のもと症例検討等のセミナーを行う。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> 言語聴覚士として、適切な評価を行い障害像を的確に捉える。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> 患者に対し適切な評価方法を選択し、適切な評価を行い、患者の障害像を的確に捉える。 				
【教科書・リザーブドブック】				
実習の手引き				
【参考書】				
<p>平野哲雄, 他編『言語聴覚療法 臨床マニュアル 改訂第3版』協同医書出版, 2014年 ¥6,800 (税別)</p> <p>深浦順一. 編集主幹『図解 言語聴覚療法技術ガイド』文光堂, 2014年 ¥10,000 (税別)</p> <p>伊藤元信, 笹沼澄子 編集『新編 言語治療マニュアル』医歯薬出版, 2002年 ¥6,400 (税別)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。 臨床評価実習の学外実習成績と学内での成績(実習前試験、実習後の提出書類、症例報告会の内容など)を総合的に判断し成績判定を行う。 				

【科目名】	臨床総合実習		【担当教員】	佐藤 厚
【授業区分】	専門分野(臨床実習)	【授業コード】	5-32-1250-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	a. satou@nur. ac. jp
【単位数】	8	【コマ数】	160コマ	(オフィスアワー) 月～金(火曜除く) 12:40～13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>1. この科目を履修するには、それまでの必修科目すべてを修得していること。</p> <p>2. 学外実習を実施するには、学外実習前の実習前試験に合格すること。</p> <p>※この科目は実務経験者対応科目である。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・実習施設へ行く前に、身だしなみを整えること。 ・社会人、医療人として不適切であると判断された(身だしなみ、言動など)学生については実習を認めないことがある。 ・実習終了後は、症例報告会を行うので、必要な要約及び発表スライド等の準備を行うこと。 ・実習中に事故・事件その他問題が起きた場合は、直ぐに実習先のスタッフ及び本学へ連絡すること。 <p>実習・発表の結果については随時フィードバックを行い、必要に応じて結果を説明する。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>臨床総合実習は3年までの卒業にかかわるすべての単位を修得した後に実施される。それまでに学んだ基本的知識と技術を応用し、臨床実習指導者の指導のもとに患者を介して言語聴覚療法評価・治療を体験する。患者を適切に評価、統合的に解釈、問題を把握し、その間に応じた言語聴覚療法プログラムを設定し、実践する。さらに、再評価を行うことによって治療効果を検討する。また、実習の過程で言語聴覚士の社会的役割とチームワークの重要性、理論的・法的責任を理解し、言語聴覚療法実施上の総合的能力を高める。当該科目と学位授与方針との関連性：A-3, S-1, S-2, S-3</p>				
(方法)				
<p>臨床総合実習は4年次に8週間行う。</p> <p>学内でも実習前試験や症例報告会を行う。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚士として、適切な評価を行い障害像を的確に捉える。 ・言語聴覚士として、適切な治療計画を立案し、的確に治療を行える。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・患者に対し適切な評価方法を選択し、適切な評価を行い、患者の障害像を的確に捉える。 ・患者に対し適切な治療計画の立案と治療を行う。 				
【教科書・リザーブドブック】				
実習の手引き				
【参考書】				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まない。 ・臨床総合実習中の学外実習成績と学内での成績(実習前試験、実習後の提出書類、症例報告会の内容など)を総合的に判断し成績判定を行う。 				

【科目名】	言語聴覚学演習 I		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	5-33-1255-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	選択	ohdaira@nur.ac.jp
【単位数】	2	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来学時
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>言語聴覚士国家試験に出題される専門基礎科目の講義を行います。 特に出題数の高い科目に時間をかけて行います。 受け身ではなく、積極的に教員に関わり、自己学習を充実させてください。 授業実施順は、記載順とは異なる可能性があります。 ※この科目は実務経験者対応科目である。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>足りない場合は補講することがあります。 補講がある場合、すべて受講するよう努めてください。 試験の答えは返却します。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
国家試験に合格できる学力を身につける。				
(方法)				
<p>国家試験の過去出題傾向から要点を知り、既に学んできた各科目の内容を整理・統合していく。 予習・復習を充分にしておいてください。質問はいつでも受けつけますので、早めに連絡を入れて下さい。 国家試験過去問題は答えを暗記するのではなく、理解することに努めましょう。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
言語聴覚士国家試験に出題される専門基礎科目の復習を行う。				
【行動目標(SB0)】				
<p>専門基礎科目について知識を深める。 国家試験過去問題を十分に理解できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
指定しない。				
【参考書】				
・医療研修推進財団監修『言語聴覚士 国家試験出題基準平成25年4月版』医歯薬出版株式会社, 2013年. ¥2,200+税				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。 試験(90%)と学習に取り組む姿勢(10%)とにより総合的に判定する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	解剖・生理学	講義		30分
2	病理・内科・形成	講義		30分
3	小児科学	講義		30分
4	精神医学・臨床心理	講義		30分
5	聴覚系	講義		30分
6	神経系	講義		30分
7	歯科系	講義		30分
8	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	講義		30分

9	認知・学習心理学	講義		30分
10	心理測定・生涯発達心理	講義		30分
11	音声・言語学	講義		30分
12	音響・聴覚心理	講義		30分
13	言語発達学	講義		30分
14	法関係	講義		30分
15	リハ医学・リハ概論	講義		30分

【科目名】	言語聴覚学演習 I		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	5-33-1255-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	選択	ohdaira@nur.ac.jp
【単位数】	2	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来学時
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>言語聴覚士国家試験に出題される専門基礎科目の講義を行います。 特に出題数の高い科目に時間をかけて行います。 受け身ではなく、積極的に教員に関わり、自己学習を充実させてください。 授業実施順は、記載順とは異なる可能性があります。 ※この科目は実務経験者対応科目である。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>足りない場合は補講することがあります。 補講がある場合、すべて受講するよう努めてください。 試験の答えは返却します。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
国家試験に合格できる学力を身につける。				
(方法)				
<p>国家試験の過去出題傾向から要点を知り、既に学んできた各科目の内容を整理・統合していく。 予習・復習を充分にしておいてください。質問はいつでも受けつけますので、早めに連絡を入れて下さい。 国家試験過去問題は答えを暗記するのではなく、理解することに努めましょう。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
言語聴覚士国家試験に出題される専門基礎科目の復習を行う。				
【行動目標(SB0)】				
<p>専門基礎科目について知識を深める。 国家試験過去問題を十分に理解できる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
指定しない。				
【参考書】				
・医療研修推進財団監修『言語聴覚士 国家試験出題基準平成25年4月版』医歯薬出版株式会社, 2013年. ¥2,200+税				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。 試験(90%)と学習に取り組む姿勢(10%)とにより総合的に判定する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		90						10	100
評価 指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	解剖・生理学	講義		30分
2	病理・内科・形成	講義		30分
3	小児科学	講義		30分
4	精神医学・臨床心理	講義		30分
5	聴覚系	講義		30分
6	神経系	講義		30分
7	歯科系	講義		30分
8	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	講義		30分

9	認知・学習心理学	講義		30分
10	心理測定・生涯発達心理	講義		30分
11	音声・言語学	講義		30分
12	音響・聴覚心理	講義		30分
13	言語発達学	講義		30分
14	法関係	講義		30分
15	リハ医学・リハ概論	講義		

【科目名】 言語聴覚学演習Ⅱ		【担当教員】 高橋 圭三	
【授業区分】 専門分野(特論)	【授業コード】 5-33-1260-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】 通年(前期)	【選択必修】 選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 2	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 火・木曜以外の16:50~18:20	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、国家試験に出題される科目の講義を行う。今まで受講した科目すべての範囲を講義することはできないが、国家試験対策用の講義としている。 ・内容は、失語症、音声障害、嚥下障害などの専門科目分野である。 ・授業コマ、順不同である。 ・この科目は実務経験者対応科目である。 			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
<ul style="list-style-type: none"> ・1回目と2回目の試験で60%以上取得することが単位取得条件である。 ・試験結果は他に支障のない限り返却します。 ・補講を行うこともある。 			
【講義概要】			
(目的)			
<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目と学位授与方針等との関連性；S-1, 2, 3 ・これまでの大学生活で学んだそれぞれの科目から、特に専門の内容を体系的に理解し、専門職業人として知識を結び付ける。言語聴覚士として専門分野における広い知識を養う。 			
(方法)			
<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の国家試験対策講義を行う。 ・模試を随時行う。 			
【一般教育目標(GIO)】			
今まで学んで来た、専門科目の総括として復習を行う。			
【行動目標(SBO)】			
専門科目について知識を深める。国家試験過去問題の80%以上の理解(解説)ができる。そのため、過去問題は90%以上正答、オリジナル問題は60%以上正答できる。			
【教科書・リザーブドブック】			
特に定めない。専門科目の教科書、言語聴覚士テキスト、言語聴覚士出題基準など。			
【参考書】			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。 			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	言語聴覚障害学総論	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
2	言語聴覚障害診断学	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
3	失語症	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
4	高次脳機能障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
5	言語発達障害1	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
6	言語発達障害2	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
7	音声障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
8	器質性構音障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜

9	機能性構音障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
10	構音障害（運動障害性）	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
11	嚥下障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
12	吃音	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
13	小児聴覚障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
14	成人聴・視聴障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
15	補聴器・人工内耳	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜

【科目名】 言語聴覚学演習Ⅱ		【担当教員】 高橋 圭三	
【授業区分】 専門分野(特論)	【授業コード】 5-33-1260-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】 通年(後期)	【選択必修】 選択	takahashik@nur.ac.jp、takahashik@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 2	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 火・木曜以外の16:50~18:20	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、国家試験に出題される科目の講義を行う。今まで受講した科目すべての範囲を講義することはできないが、国家試験対策用の講義としている。 ・内容は、失語症、音声障害、嚥下障害などの専門科目分野である。 ・授業コマ、順不同である。 ・この科目は実務経験者対応科目である。 			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
<ul style="list-style-type: none"> ・1回目と2回目の試験で60%以上取得することが単位取得条件である。 ・試験結果は他に支障のない限り返却します。 ・補講を行うこともある。 			
【講義概要】			
(目的)			
<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目と学位授与方針等との関連性；S-1, 2, 3 ・これまでの大学生活で学んだそれぞれの科目から、特に専門の内容を体系的に理解し、専門職業人として知識を結び付ける。言語聴覚士として専門分野における広い知識を養う。 			
(方法)			
<ul style="list-style-type: none"> ・専門科目の国家試験対策講義を行う。 ・模試を随時行う。 			
【一般教育目標(GIO)】			
今まで学んで来た、専門科目の総括として復習を行う。			
【行動目標(SBO)】			
専門科目について知識を深める。国家試験過去問題の80%以上の理解(解説)ができる。そのため、過去問題は90%以上正答、オリジナル問題は60%以上正答できる。			
【教科書・リザーブドブック】			
特に定めない。専門科目の教科書、言語聴覚士テキスト、言語聴覚士出題基準など。			
【参考書】			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含みません。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。 			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計(%)
総合評価割合		90						10	100
評価指標	取り込む力・知識	90							90
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	言語聴覚障害学総論	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
2	言語聴覚障害診断学	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
3	失語症	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
4	高次脳機能障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
5	言語発達障害1	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
6	言語発達障害2	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
7	音声障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
8	器質性構音障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜

9	機能性構音障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
10	構音障害（運動障害性）	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
11	嚥下障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
12	吃音	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
13	小児聴覚障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
14	成人聴・視聴障害	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜
15	補聴器・人工内耳	講義	教科書や過去問題をよく学習しておくこと	適宜

【科目名】 言語聴覚学演習Ⅲ		【担当教員】 大平 芳則	
【授業区分】 専門分野(特論)	【授業コード】 5-33-1265-0-2	(メールアドレス)	
【開講時期】 通年(前期)	【選択必修】 選択	ohdaira@nur.ac.jp	
【単位数】 2	【コマ数】 15コマ	(オフィスアワー) 来学時	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
臨床現場に必要な知識につながる国家試験科目について学習を行います。 臨床現場に必要な知識として対応する国家試験科目は、専門基礎科目、専門科目です。 ※この科目は実務経験者対応科目である。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
足りない場合は補講をする場合があります。 補講がある場合はすべて出席し、国家試験学習に役立ててください。 講義は順不同です。 試験の答えは返却します。			
【講義概要】			
(目的)			
言語聴覚療法を展開するうえで必要な知識(専門基礎科目、専門科目)を身につける。			
(方法)			
講義形式で行う。			
【一般教育目標(GIO)】			
・言語聴覚士という職種にとって、必要な知識を国家試験から得ることができる。			
【行動目標(SB0)】			
・専門基礎科目、専門科目の国家試験科目の知識を深める。			
【教科書・リザーブドブック】			
指定しない			
【参考書】			
・医療研修推進財団監修『言語聴覚士 国家試験出題基準平成25年4月版』医歯薬出版株式会社, 2013年. ¥2,200+税 ・廣瀬肇監修, 岩田誠ら編集『言語聴覚士テキスト第2版』医歯薬出版株式会社, 2012年. ¥4,000+税			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。			

【科目名】	言語聴覚学演習Ⅲ		【担当教員】	大平 芳則
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	5-33-1265-0-2	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	選択	ohdaira@nur.ac.jp
【単位数】	2	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 来学時
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
※この科目は実務経験者対応科目である。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
足りない場合は補講をする場合があります。				
補講がある場合はすべて出席し、国家試験学習に役立ててください。				
講義は順不同です。				
試験の答えは返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
言語聴覚療法を展開するうえで必要な知識(専門基礎科目、専門科目)を身につける。				
(方法)				
講義形式で行う。				
【一般教育目標(GIO)】				
・言語聴覚士という職種にとって、必要な知識を国家試験から得ることができる。				
【行動目標(SB0)】				
・専門基礎科目、専門科目の国家試験科目の知識を深める。				
【教科書・リザーブドブック】				
指定しない				
【参考書】				
・医療研修推進財団監修『言語聴覚士 国家試験出題基準平成25年4月版』医歯薬出版株式会社, 2013年. ¥2,200+税				
・廣瀬肇監修, 岩田誠ら編集『言語聴覚士テキスト第2版』医歯薬出版株式会社, 2012年. ¥4,000+税				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。				

【科目名】	卒業研究		【担当教員】	佐藤 厚
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	5-33-1270-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	選択	a. satou@nur. ac. jp
【単位数】	3	【コマ数】	15コマ(前後期)	(オフィスアワー) 平日12時40分～13時30分(火曜除)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
3年次までに必要な単位をすべて習得していること。 ※この科目は実務経験者対応科目である。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
自ら研究テーマを模索し、必要な学習を行う姿勢を持つこと。 研究論文及びその発表を評価の対象とする。 論文と発表に対するフィードバック、採点結果は随時説明する。				
【講義概要】				
(目的)				
研究方法について継続的に学び、卒業研究のためのテーマの選定や論文の探索方法、論文構成など、論文執筆の基礎を学ぶ。論文内容は簡潔に発表できるように理解を進める。自ら学び、根拠に基づく持論の展開を身につける。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-3, S-1, S-2, S-3				
(方法)				
ゼミ形式にて、論文輪読やディスカッションの中から研究テーマを模索する。見いだした研究テーマについて理解を深め、独自の視点に立った検証を行い、結果を論文、発表形式に作り上げる。				
【一般教育目標(GIO)】				
STに必要な研究方法について実践できる。 学会や研修会参加を通して、将来のST像をイメージできる。				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表や研修会に参加し、学習する。 ・論文を読んで理解できる。 ・研究デザインを組むことができ、結果を論文形式にまとめることができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
特になし。				
【参考書】				
特になし。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。 卒論の内容、発表などから総合的に評価を行う。 出席点は評価には含まれない。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	50				100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20	20				40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢			10	10				20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-3	計画の立案			
4-8	実験・資料の収集			
9-13	データのまとめと考察			
14	執筆			
15	発表			

【科目名】	卒業研究		【担当教員】	佐藤 厚
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	5-33-1270-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	選択	a. satou@nur. ac. jp
【単位数】	3	【コマ数】	15コマ(前後期)	(オフィスアワー) 平日12時40分～13時30分(火曜除)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
3年次までに必要な単位をすべて習得していること。 ※この科目は実務経験者対応科目である。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
自ら研究テーマを模索し、必要な学習を行う姿勢を持つこと。 研究論文及びその発表を評価の対象とする。 論文と発表に対するフィードバック、採点結果は随時説明する。				
【講義概要】				
(目的)				
研究方法について継続的に学び、卒業研究のためのテーマの選定や論文の探索方法、論文構成など、論文執筆の基礎を学ぶ。論文内容は簡潔に発表できるように理解を進める。自ら学び、根拠に基づく持論の展開を身につける。 当該科目と学位授与方針との関連性：A-3, S-1, S-2, S-3				
(方法)				
ゼミ形式にて、論文輪読やディスカッションの中から研究テーマを模索する。見いだした研究テーマについて理解を深め、独自の視点に立った検証を行い、結果を論文、発表形式に作り上げる。				
【一般教育目標(GI0)】				
STに必要な研究方法について実践できる。 学会や研修会参加を通して、将来のST像をイメージできる。				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> 研究発表や研修会に参加し、学習する。 論文を読んで理解できる。 研究デザインを組むことができ、結果を論文形式にまとめることができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
特になし。				
【参考書】				
特になし。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のG P A制度に従う。 卒論の内容、発表などから総合的に評価を行う。 出席点は評価には含まれない。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	50				100
評価 指標	取り込む力・知識			20					20
	思考・推論・創造の力			20	20				40
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				20				20
	学修に取り組む姿勢			10	10				20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-3	計画の立案			
4-8	実験・資料の収集			
9-13	データのまとめと考察			
14	執筆			
15	発表			

【科目名】	総合演習 I		【担当教員】	佐藤 厚
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	5-33-1280-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	a. satou@nur. ac. jp
【単位数】	1	【コマ数】	10コマ(前後期)	(オフィスアワー) 月～金(火曜除く) 12:40～13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
実習に関連が深い領域の国家試験対策を中心に学習を行う。 ※この科目は実務経験者対応科目である。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
国家試験過去問題を中心に学習を進める。 試験の結果は支障の無い限り返却する。				
【講義概要】				
(目的)				
1, 2, 3年で学習した内容について総合的にその理解や、知識を確認し、不十分な点について学生自ら自覚し、弱点を補強してゆく目安とする。また不十分な科目を発見し、復習することで4年進級にたる力を備えていく。当該科目と学位授与方針との関連性：A-3, S-1, S-2, S-3				
(方法)				
講義や模擬試験を行う。				
【一般教育目標(GIO)】				
今まで学習してきた科目に対応する国家試験過去問題を確認し、必要な知識を整理することができる。				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験過去問題の傾向を把握できる。 ・今まで学習した科目に対応する国家試験過去問題を解くことができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<ul style="list-style-type: none"> ・医療研修推進財団、『言語聴覚士国家試験出題基準 平成30年4月版』, 医歯薬出版, 2018. ¥2200 (税抜き) ・大森孝一他編集『言語聴覚士テキスト第3版』, 医歯薬出版, 2018. ¥4200 (税抜き) ・医学辞書(種類は問わない)、・各科目で使う教科書を適宜使用する 				
【参考書】				
特に定めない				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含まない。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		20					60
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	国家試験とは 出題基準	講義		
2	国家試験対策学習方法 目標設定、ノートのまとめ方、単語帳の作成など	講義		
3	国家試験対策 過去問題の学習方法	講義		
4	模擬試験	模試		
5	過去問題解説作成	自主学習		

【科目名】	総合演習 I		【担当教員】	佐藤 厚
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	5-33-1280-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	a. satou@nur. ac. jp
【単位数】	1	【コマ数】	10コマ(前後期)	(オフィスアワー) 月～金(火曜除く) 12:40～13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
実習に関連が深い領域の国家試験対策を中心に学習を行う。 ※この科目は実務経験者対応科目である。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
国家試験過去問題を中心に学習を進める。 試験の結果は支障の無い限り返却する。				
【講義概要】				
(目的)				
1, 2, 3年で学習した内容について総合的にその理解や、知識を確認し、不十分な点について学生自ら自覚し、弱点を補強してゆく目安とする。また不十分な科目を発見し、復習することで4年進級にたる力を備えていく。当該科目と学位授与方針との関連性：A-3, S-1, S-2, S-3				
(方法)				
講義や模擬試験を行う。				
【一般教育目標(GIO)】				
今まで学習してきた科目に対応する国家試験過去問題を確認し、必要な知識を整理することができる。				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験過去問題の傾向を把握できる。 ・今まで学習した科目に対応する国家試験過去問題を解くことができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<ul style="list-style-type: none"> ・医療研修推進財団、『言語聴覚士国家試験出題基準 平成30年4月版』, 医歯薬出版, 2018. ¥2200 (税抜き) ・大森孝一他編集『言語聴覚士テキスト第3版』, 医歯薬出版, 2018. ¥4200 (税抜き) ・医学辞書(種類は問わない)、・各科目で使う教科書を適宜使用する 				
【参考書】				
特に定めない				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・出席点は評価に含まない。 ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、期末試験およびレポート点により総合的に評価する。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価 指標	取り込む力・知識	40		20					60
	思考・推論・創造の力	20		10					30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢			10					10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	国家試験とは 出題基準	講義		
2	国家試験対策学習方法 目標設定、ノートのまとめ方、単語帳の作成など	講義		
3	国家試験対策 過去問題の学習方法	講義		
4	模擬試験	模試		
5	過去問題解説作成	自主学習		

【科目名】	総合演習Ⅱ		【担当教員】	佐藤 厚
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	5-33-1285-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(前期)	【選択必修】	必修	a. satou@nur. ac. jp
【単位数】	2	【コマ数】	30コマ(前後期)	(オフィスアワー) 月～金(火曜除く) 12:40～13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
国家試験対策として、講義を行う。 ※この科目は実務経験者対応科目である。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
3年次までの講義を総括する必要がある。特に基礎医学的な範囲を復習しておくこと。 国家試験対策模試や定期試験の結果は支障の無い限り返却し、随時説明を行う。				
【講義概要】				
(目的)				
これまでに学習した内容について総合的にその理解や、知識を確認し、不十分な点について学生自ら自覚し、弱点を補強していく。また、国家試験合格を見込める十分な力をつける。				
(方法)				
国家試験過去問題の解説を中心とした講義などを行う。				
【一般教育目標(GIO)】				
言語聴覚士国家試験に必要な知識を再学習する。				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験形式の問題になれる。 ・苦手科目、得意科目をみつけ、科目ごとの取得点数を設定する。 				
【教科書・リザーブドブック】				
指定しない				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・医療研修推進財団監修『言語聴覚士 国家試験出題基準平成 30 年 4 月版』医歯薬出版株式会社, 2018 年. ¥2, 200+税 ・大森孝一ら編『言語聴覚士テキスト第 3 版』医歯薬出版株式会社, 2018 年. ¥4, 200+税 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まれない。 試験と学習に取り組む姿勢とにより総合的に判定する。				

【科目名】	総合演習Ⅱ		【担当教員】	佐藤 厚
【授業区分】	専門分野(特論)	【授業コード】	5-33-1285-0-1	(メールアドレス)
【開講時期】	通年(後期)	【選択必修】	必修	a. satou@nur. ac. jp
【単位数】	2	【コマ数】	30コマ(前後期)	(オフィスアワー) 月～金(火曜除く) 12:40～13:30
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
国家試験対策として、講義を行う。 ※この科目は実務経験者対応科目である。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
3年次までの講義を総括する必要がある。特に基礎医学的な範囲を復習しておくこと。 国家試験対策模試や定期試験の結果は支障の無い限り返却し、随時説明を行う。				
【講義概要】				
(目的)				
これまでに学習した内容について総合的にその理解や、知識を確認し、不十分な点について学生自ら自覚し、弱点を補強していく。また、国家試験合格を見込める十分な力をつける。				
(方法)				
国家試験過去問題の解説を中心とした講義などを行う。				
【一般教育目標(GIO)】				
言語聴覚士国家試験に必要な知識を再学習する。				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験形式の問題になれる。 ・苦手科目、得意科目をみつけ、科目ごとの取得点数を設定する。 				
【教科書・リザーブドブック】				
指定しない				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・医療研修推進財団監修『言語聴覚士 国家試験出題基準平成 30 年 4 月版』医歯薬出版株式会社, 2018 年. ¥2, 200+税 ・大森孝一ら編『言語聴覚士テキスト第 3 版』医歯薬出版株式会社, 2018 年. ¥4, 200+税 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含まれない。 試験と学習に取り組む姿勢とにより総合的に判定する。				

